



農林水産省のミッション

～食を中心とした限りないフィールド～

農林水産省 近畿農政局

1. 農林水産省について
2. 農林水産業の課題・政策
3. 職場環境
4. 採用案内
5. 近畿農政局若手職員紹介

1. 農林水産省について

VISION STATEMENT

ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、

いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を

未来の子どもたちに継承していくことを使命として、

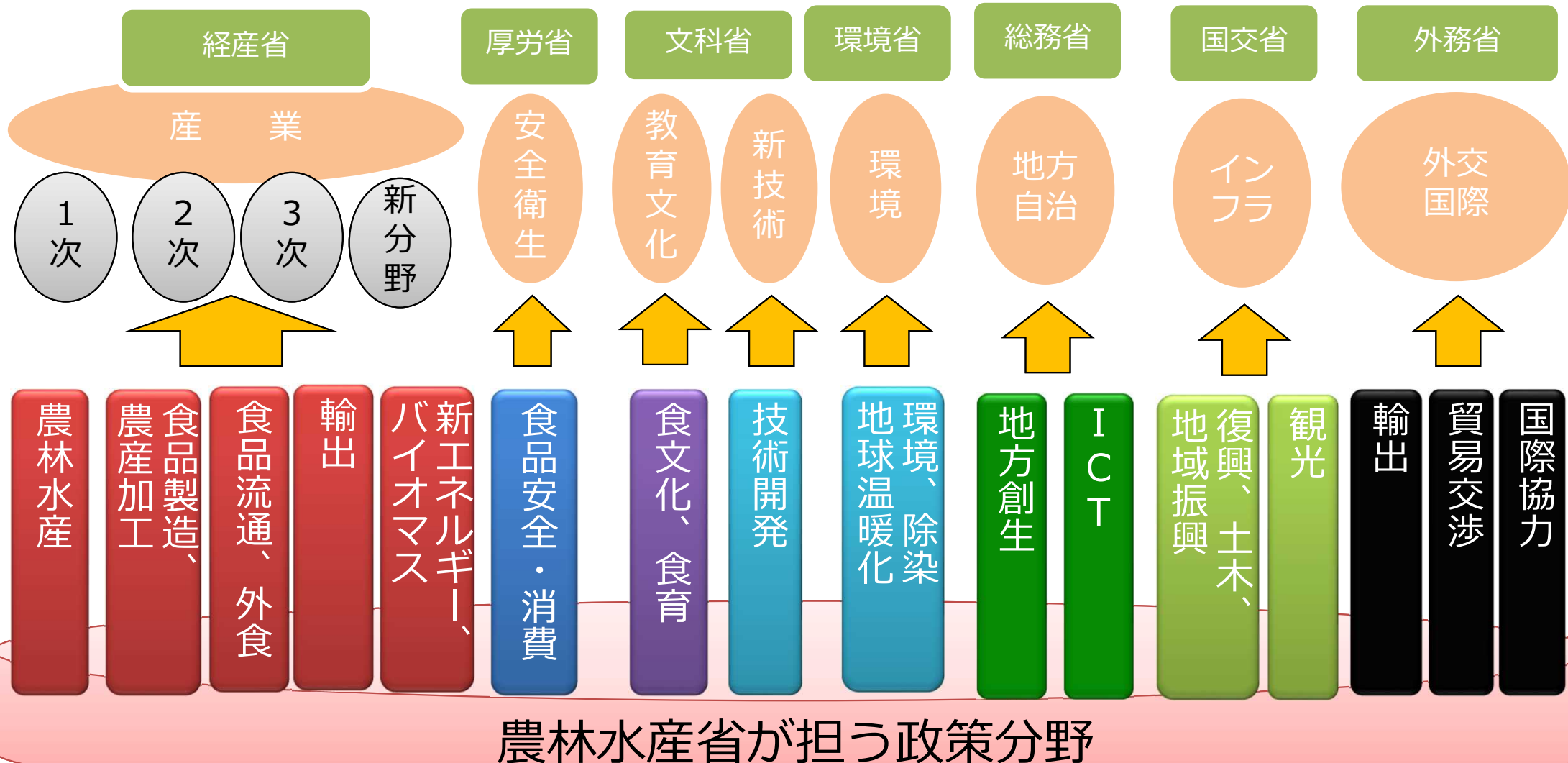
常に国民の期待を正面から受けとめ

時代の変化を見通して政策を提案し、

その実現に向けて全力で行動します。

農林水産省が担う政策分野

▼農林水産省は、「食」を中心に、産業政策、地域振興、インフラ、文化、外交等の幅広い政策分野を総合的に担うため、「**総合政策官庁**」と呼ばれています。

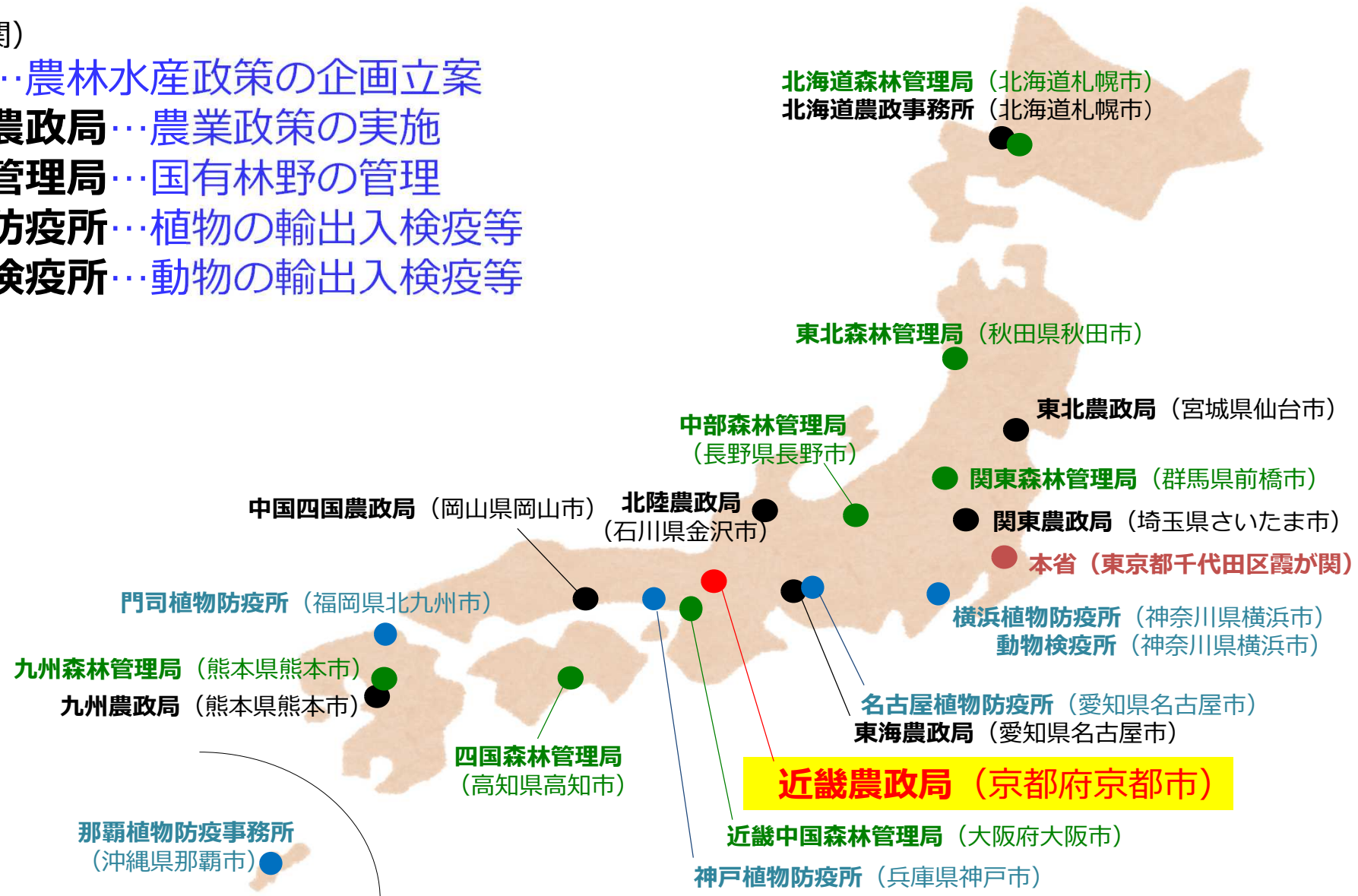


農林水産省の組織

▼農林水産省は、本省（約 5 千人）と全国の各地方ブロック機関（約 1 万 5 千人）で構成され、総定員数は約 2 万人です。

（主な機関）

- ・ **本省**…農林水産政策の企画立案
- ・ **地方農政局**…農業政策の実施
- ・ **森林管理局**…国有林野の管理
- ・ **植物防疫所**…植物の輸出入検疫等
- ・ **動物検疫所**…動物の輸出入検疫等



MAFF

近畿農政局

地方参事官

統計部

- ・和歌山平野農地防災事業所

(令和5年4月1日現在)

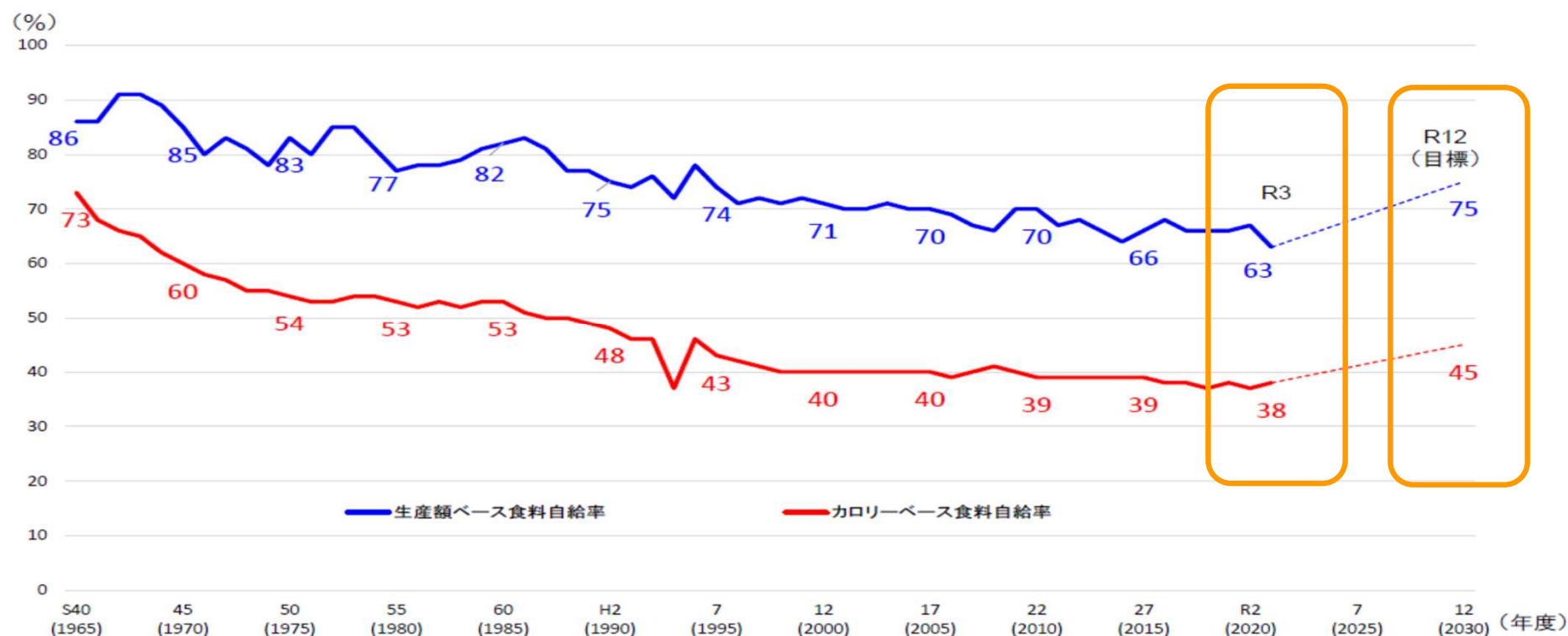


2. 農林水産業の課題・政策

農林水産業の課題

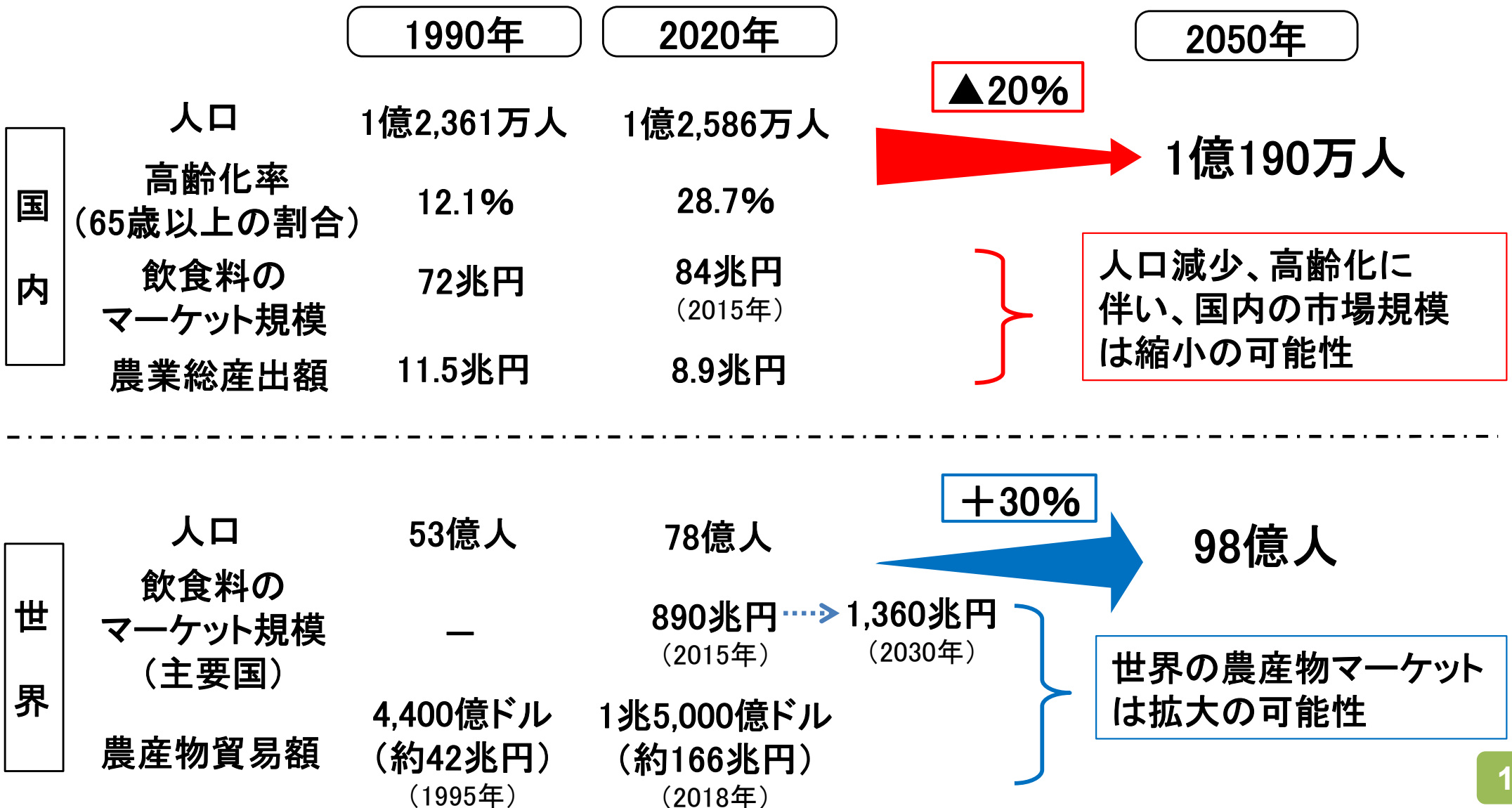
食料自給率の推移

- ▼我が国の食料自給率は、長期的に低下傾向で推移してきましたが、カロリーベースでは近年横ばい傾向で推移しています。
- ▼国民に対する食料の安定的な供給については、世界の食料需給等に不安定な要素が存在していることを考慮し、国内の農業生産の増大を図ることを基本とし、これと輸入及び備蓄とを適切に組み合わせることにより確保することが必要です。



農政を取り巻く状況の変化

▼人口減少や高齢化に伴い、国内の市場規模は減少する可能性がある一方で、
世界の農産物マーケットは拡大する可能性があります。

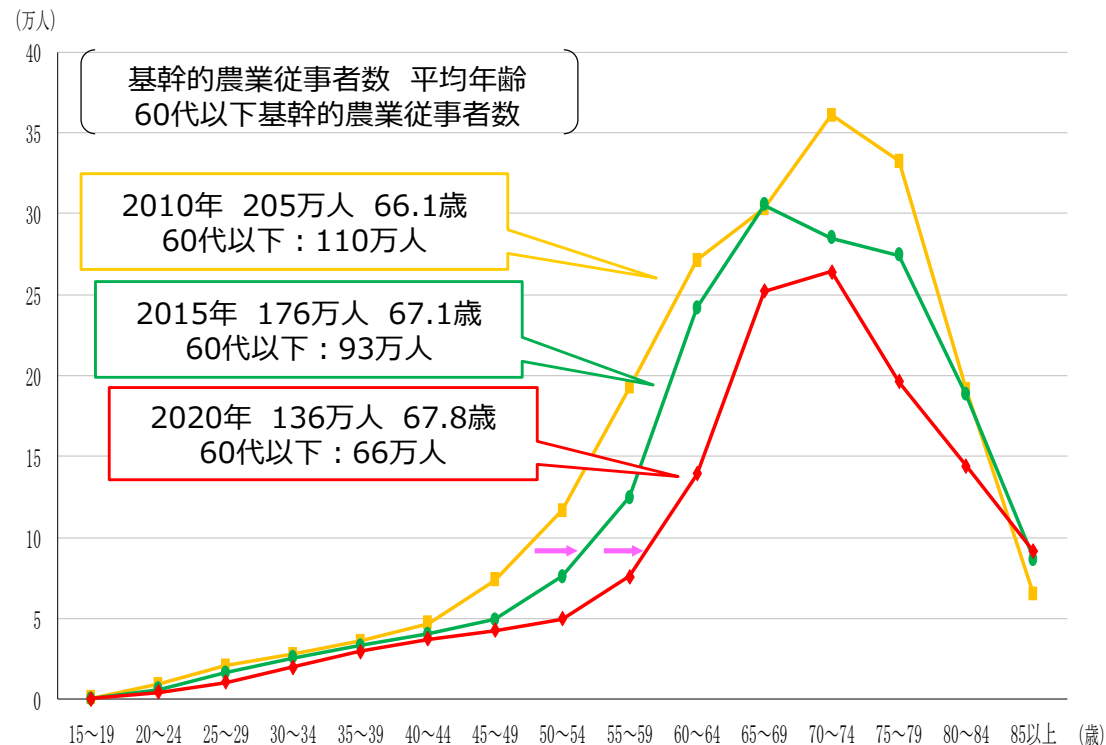


農業従事者の減少・高齢化

▼日本の農業を支える基幹的農業従事者は、**高齢化が進み、平均年齢は67.8歳。**

▼各国の農業従事者と比較しても高齢化は顕著。

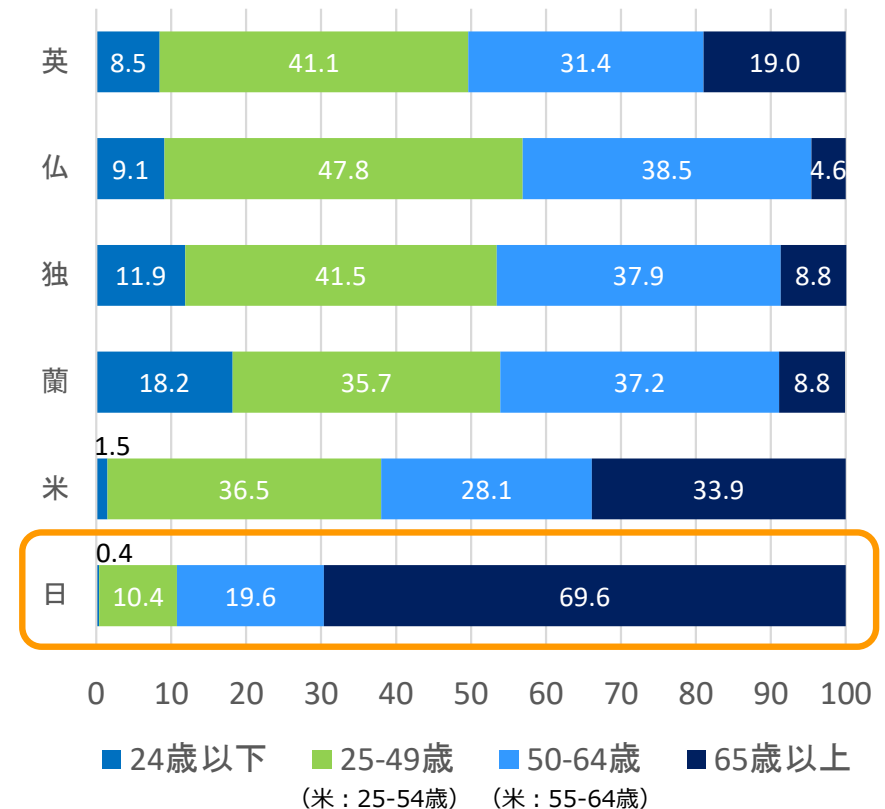
○基幹的農業従事者の年齢構成



基幹的農業従事者：ふだん仕事として主に自営農業に従事した者。（家事や育児が主体の主婦や学生等は含まない。）
農業就業者：基幹的農業従事者及び雇用者（常雇い）

出典：農林水産省「農林業センサス」

○各国の農業従事者の年齢構成



出典：

英は、EUROSTAT(2019)：農業に従事した世帯員

仏独蘭は、EUROSTAT(2020)：農業に従事した世帯員

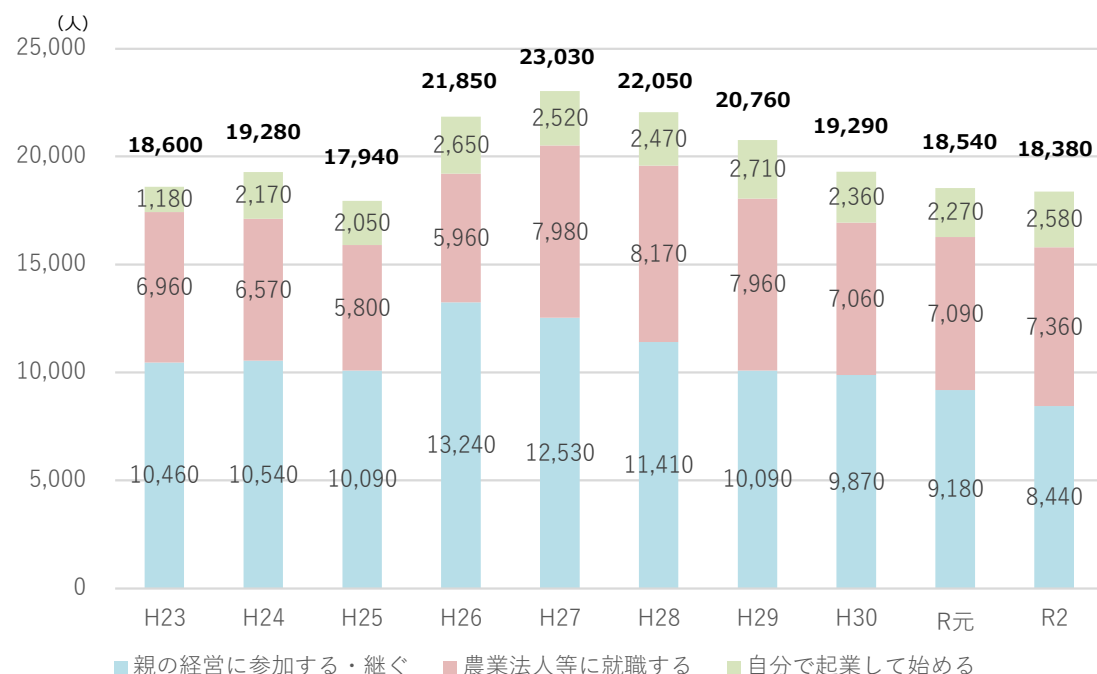
米は、米国農務省「2017年農業センサス」：農業に従事した世帯員

日は、農林水産省「農林業センサス」(令和2年)：基幹的農業従事者

新規就農者の推移

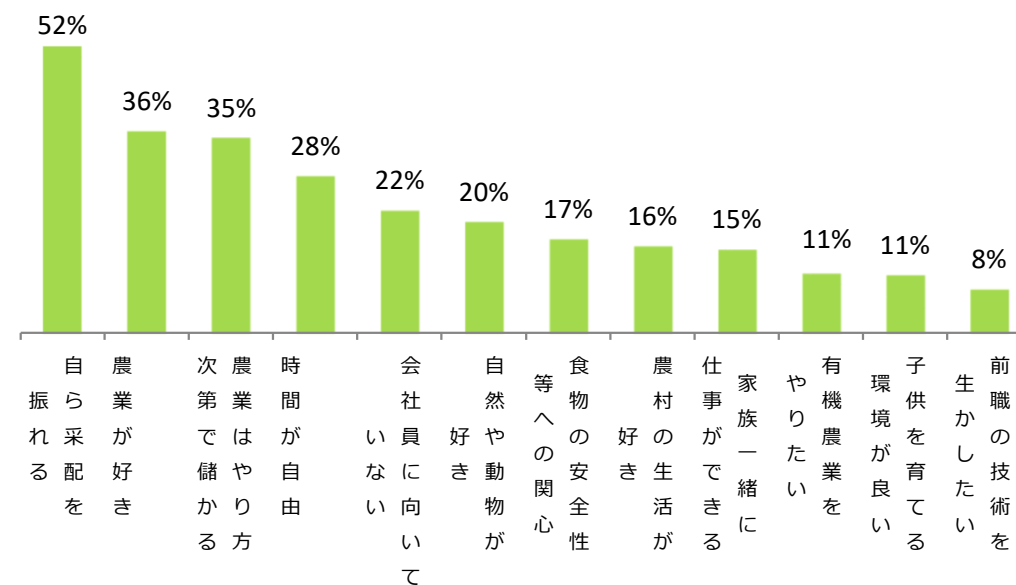
- ▼ 世代間のバランスのとれた農業就業構造の実現に向けて、青年層の就業者の増加が喫緊の課題。
- ▼ 49歳以下の新規就農者数は、近年はおおむね2万人程度で推移。
- ▼ 「自ら采配を振れる」といったビジネス的魅力を感じている者が約半数を占め、「農業が好き」「自然や動物が好き」など農的な生き方に魅力を感じている者も多数を占める。

○49歳以下の新規就農者の推移



出典：農林水産省「新規就農者調査」

○新規参入者の就農の理由

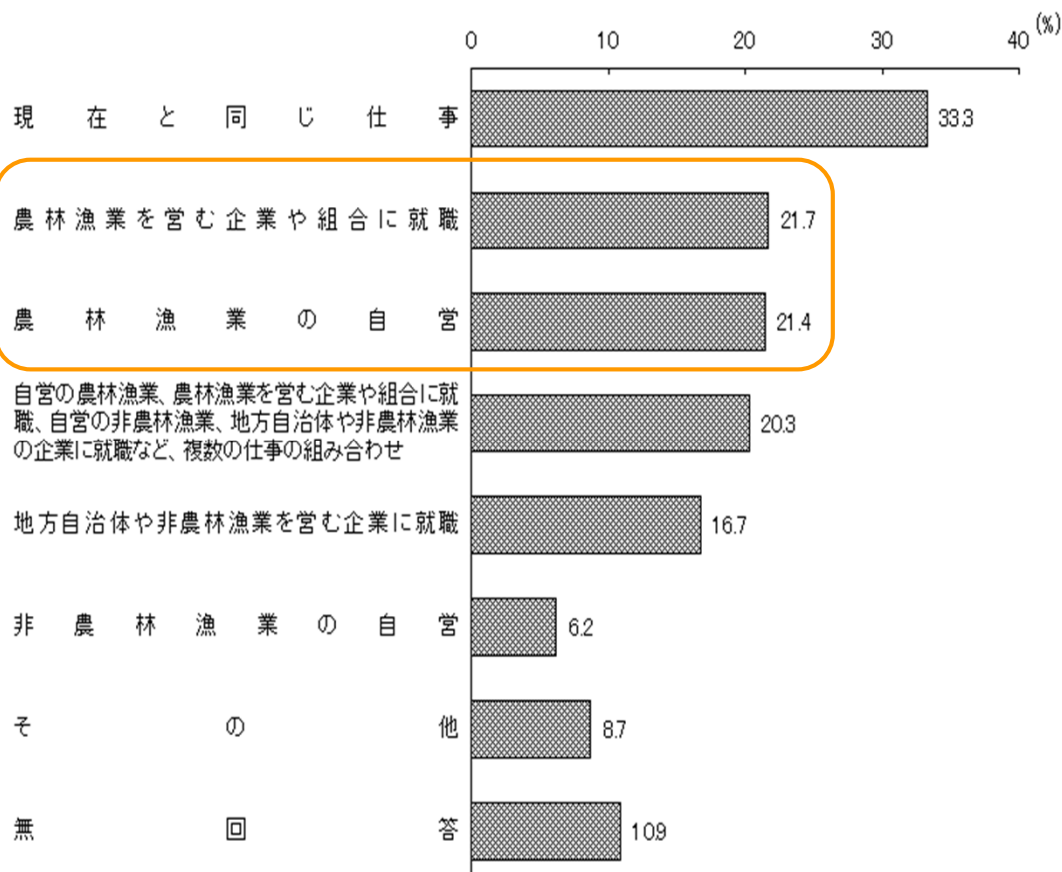


出典：新規就農者の就農実態に関する調査結果（令和4年全国新規就農相談センター）

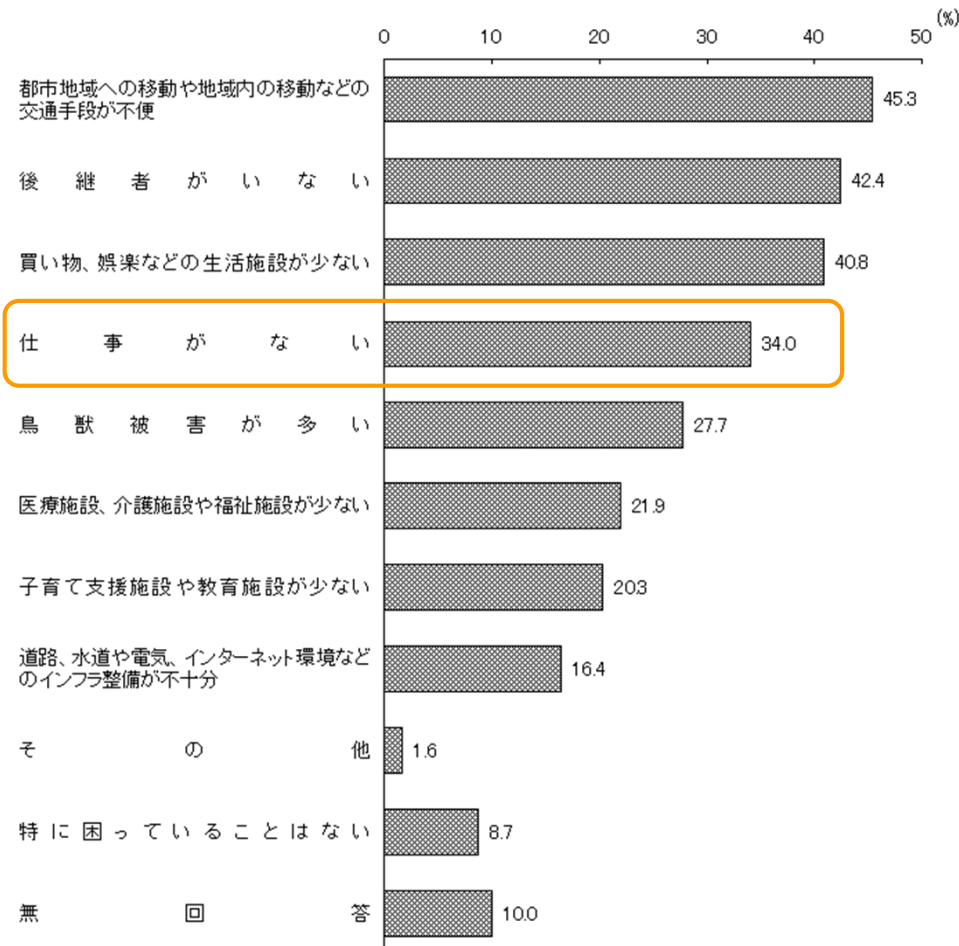
農山漁村地域の過疎化・定住確保

- ▼ 都市住民の農山漁村地域への移住願望の有無は「ない（「どちらかということない」を含む）」とする者が約7割を占める。
- ▼ 農山漁村地域では農林漁業への意欲はありつつ「仕事がない」という現実も。

○農山漁村地域に移住する場合の仕事



○農山漁村地域の生活で困っていること



農林水産省の政策

▼ 新しい資本主義の下、食料安全保障の強化と安定供給に向けた取組の推進。

食料安全保障強化のための重点対策

1 食料安全保障の強化に向けた構造転換の実現

(1) 食料生産に不可欠な肥料、飼料等を、国内資源の活用等へ大きく転換

- 堆肥・下水汚泥資源の肥料利用拡大、堆肥等の広域流通、肥料原料の備蓄等により、**肥料の国産化や安定供給を確保するための対策の実施**
- 耕畜連携による**国産飼料の供給・利用拡大、養殖飼料（魚粉）の国産化の推進**
- **園芸から酪農畜産、林業、水産業まで、幅広く省エネ技術の導入加速化等**

(2) 安定的な輸入と適切な備蓄と組み合わせながら、過度な海外依存からの脱却

- **水田を畑地化し、麦・大豆等の本作化の促進**
- 輸入小麦に代わって、国内生産が可能な**米粉の生産・利用の拡大支援**
- 食品事業者における**国産切替えなどの原材料の調達安定化の推進**等

2 生産資材等の価格高騰等による影響の緩和

(1) 農林水産業の経営への影響の緩和

- 肥料、配合飼料、燃料の高騰へ対応
- 日本政策金融公庫による資金繰り支援

(2) 適正な価格形成と国民理解の醸成

- 国民理解醸成に向け情報発信
- 食品ロス削減・フードバンクへの支援等

生産面の施策 (品目横断的施策)

国内外の需要の変化に対応した国内農業の生産基盤の強化

1. 担い手への農地集積・集約化の加速化
2. 放牧など多様な農地利用による農地保全

1. 担い手の育成・確保
2. 中小・家族経営など多様な経営体による地域の下支えや農業支援サービスの定着

1. 加工・業務用需要への対応
2. 諸外国の規制やニーズに対応できるグローバル産地づくり

生産面の施策 (品目別施策)

小麦・大豆

国内産小麦・大豆の需要拡大に向けた品質向上と安定供給、耐病性・加工適性等に優れた新品種の開発導入の推進、団地化・ブロックローテーションの推進、排水対策の更なる強化やスマート農業の活用による生産性の向上

畜産物

性判別技術や牛舎の空きスペースも活用した増頭推進、中小・家族経営も含めた生産性向上・規模拡大、繁殖雌牛などの増頭推進

野菜

水田を活用した新産地の形成や加工・業務用野菜の生産拡大、機械化一貫体系や環境制御技術の導入等を通じた生産性の向上、摂取量の拡大

果実

省力樹形や機械化作業体系の導入等を通じた労働生産性の向上、海外の規制・ニーズに対応した生産・出荷体制の構築

農林水産業の輸出力強化

- ▼ 輸出額は令和3年実績で初めて1兆円を超え、令和4年実績でも過去最高を記録。
- ▼ 輸出額を2025年までに2兆円、2030年までに5兆円とすることを目指し、グローバル産地づくりや、農林水産・食品事業者の海外展開支援などを推進しています。

GFP(日本の農林水産物・食品輸出プロジェクト)

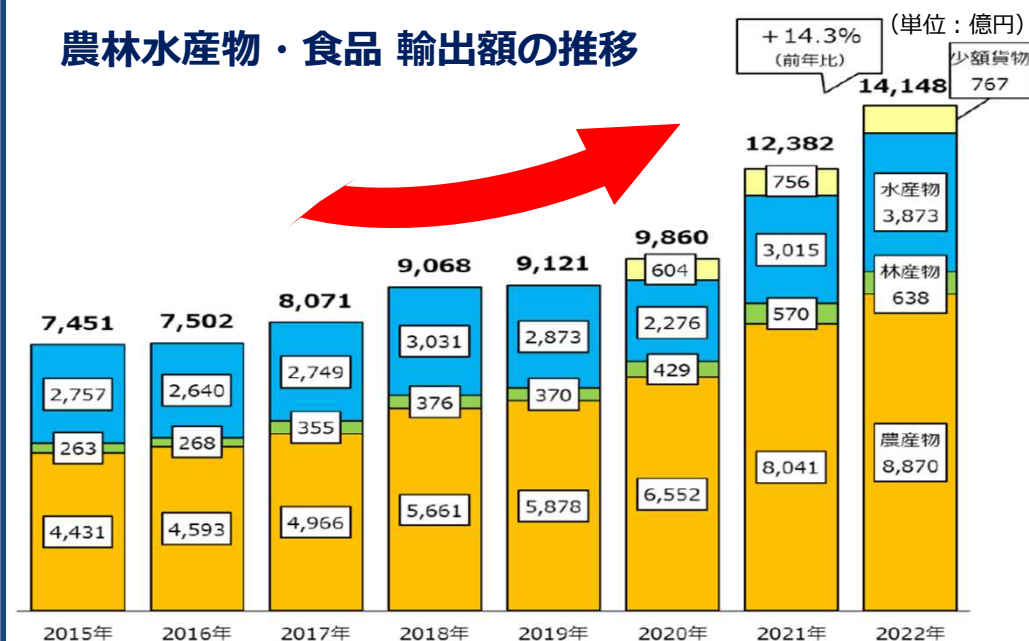
あなたを、
生産者の
日本代表にしたい。



1億人ではなく、
100億人を見据えた
農林水産業へ。

四季の豊かなこの国で、だれかを喜ばせたい一心で取り組む生産者のみなさんへ。
海外各国からのニーズが大きくなっている今、みなさんと輸出の成功事例をつくっていきたい。
このコミュニティにぜひ参加して第一歩を踏み出しませんか。農林水産省が全力でサポートします。

農林水産物・食品 輸出額の推移



輸出支援プラットフォーム

輸出先国・地域において輸出事業者を包括的・専門的・継続的に支援するため設立。在外公館、JETRO海外事務所、JFOODO海外駐在員が主な構成員。

●・・・立上げ済(日付は立上式開催日)

●・・・2023年度末までに立上げ



1 日本産食材サポーター店認定制度



- 民間が主体となり、日本産食材を積極的に使用する海外のレストラン・小売店を「サポーター店」として認定する制度を推進。日本産農林水産物・食品のユーザーである飲食店等を「見える化」し海外需要を拡大することで、輸出促進を図る。
認定店舗数：8,565店（2022年9月末時点）（香港、中国、タイ、アメリカ、ベトナム、シンガポール、フランス等）
- 令和4年度は、JETROがサポーター店と連携して実施する日本産食材のプロモーション支援や、サポーター店への料理人派遣に関する支援事業を実施。

2 海外における日本食・食文化発信の担い手育成（外国人料理人の育成等）

日本産品や日本食・食文化の魅力を発信し、我が国の食関連事業者等が海外展開をする際にパートナーとなり得る人材を育成。

- ①日本料理の調理技能認定制度
- ②日本食普及の親善大使を活用したセミナー及び料理講習会
- ③海外の外国人料理人を招へいした日本料理店研修
- ④外国人料理人による日本料理コンテスト

等



「日本食普及の親善大使」によるセミナー



日本料理店での研修



外国人料理人による日本料理コンテスト

3 トップセールスによる日本食・食文化の魅力発信

総理、大臣等の国際会議出席や出張等の機会に合わせ、日本産食材を活用したメニューのレセプションを実施。



国連総会
(2022年9月・NY)



和食レセプション
(2019年4月・ローマ)



ジャパナイト
(2019年1月・ダボス)

4 日本食・食文化の紹介映像の制作、発信

日本産品や日本食・食文化の魅力を発信する動画コンテンツ等を作成し、NHKワールドやTaste of Japan、maffchannel等で発信。



日本産食材サポーター店PR動画



日本食バーチャル体験コンテンツ



インフルエンサー等を活用した日本食文化・日本産品PR動画

＜参考＞農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略（R4年12月改訂）について

MAFF

戦略の趣旨

- 2025年2兆円・2030年5兆円目標の達成は、海外市場で求められるスペック（量・価格・品質・規格）の産品を専門的・継続的に生産・販売する（＝「マーケットイン」）体制整備が不可欠

改訂の概要

- 輸出促進法等の一部改正法の施行（R4年10月1日）等を踏まえ、R5年度に実施する施策、R6年度以降の実施に向け検討する施策について、その方向性を決定

3つの基本的な考え方と具体的施策

1. 日本の強みを最大限に発揮するための取組

- ①輸出重点品目(29品目)と輸出目標の設定
- ②輸出重点品目に係るターゲット国・地域、輸出目標、手段の明確化
- ③品目団体の組織化とその取組の強化
- ④輸出先国・地域における専門的・継続的な支援体制の強化
- ⑤JETRO・JFOODOと認定農林水産物・食品輸出促進団体等の連携
- ⑥日本食・食文化の情報発信におけるインバウンドとの連携

2. マーケットインの発想で輸出にチャレンジする事業者の支援

- ⑦リスクを取って輸出に取り組む事業者への投資の支援
- ⑧マーケットインの発想に基づく輸出産地・事業者の育成・展開
- ⑨大ロット・高品質・効率的な輸出等に対応可能な輸出物流の構築
- ⑩輸出向けに生産・流通を転換するフラッグシップ輸出産地の形成
- ⑪輸出を後押しする農林水産事業者・食品事業者の海外展開の支援

3. 政府一体となった輸出の障害の克服

- ⑫輸出先国・地域における輸入規制の撤廃
- ⑬輸出加速を支える政府一体としての体制整備
- ⑭輸出先国・地域の規制やニーズに対応した加工食品等への支援
- ⑮日本の強みを守るための知的財産対策強化

4. 国の組織体制の強化

<参考> 輸出重点品目（29品目）の選定

○海外で評価される日本の強みを有し、輸出拡大余地が大きく、関係者が一体となった輸出促進活動が効果的な29品目を輸出重点品目に選定。

輸出重点品目	海外で評価される日本の強み
牛肉	和牛として世界で認められ、人気が高く、引き続き輸出の伸びに期待。
豚肉、鶏肉	とんかつ、焼き鳥など日本の食文化とあわせて海外の日本ファンにアピールすることで、今後の輸出の伸びに期待。
鶏卵	半熟たまごが浸透し、生食できる卵としての品質が評価され、更なる輸出の伸びに期待。
牛乳・乳製品	香港や台湾で品質が高評価。アジアを中心に輸出の可能性。
果樹(りんご、ぶどう、もも、かんきつ、かき・かき加工品)、野菜(いちご)	甘くて美味しく、見た目も良い日本の果実は海外でも人気。
野菜(かんしょ等) ※	焼き芋がアジアで大人気。輸出が急増。
切り花	外国にはない品種に強み。輸出の伸び率が高い。
茶	健康志向の高まりと日本文化の浸透とともに欧米を中心にせん茶、抹茶が普及。
コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品	冷めても美味しい等の日本産米は寿司やおにぎり等に向き、日本食の普及とともに拡大が可能。
製材	スギやヒノキは、日本式木造建築だけでなく香りの癒しの効果も人気で、今後の輸出の伸びに期待。
合板	合板の加工・利用技術は、日本の得意分野。日本式木造建築とともに、今後の輸出の伸びに期待。

輸出重点品目	海外で評価される日本の強み
ぶり	脂がのっている日本独自の魚種。近年、米国等への輸出額が増加。
たい	縁起のよい赤色は中華圏でも好まれる。活魚輸出の増加に期待。
ホタテ貝	高品質な日本産ホタテ貝は世界で高く評価。水産物では輸出額ナンバーワン。
真珠	真珠養殖は日本発祥。日本の生産・加工技術が国際的に高評価。
錦鯉	日本文化の象徴としてアジア、欧州を中心に海外で人気。
清涼飲料水	緑茶飲料など日本の味が人気となり、伸び率が高い。
菓子	日本独自の発展を遂げ、他国にはない独創性。バラエティ豊かな商品とコンテンツの普及とともに海外で人気。
ソース混合調味料	カレールウなど日本食の普及とともに日本を代表する味に成長。
味噌・醤油	日本が誇る発酵食品。和食文化の浸透とともに欧米・アジア地域で人気も上昇。
清酒(日本酒)	「S A K E」は日本食のみならず各国の料理に合う食中酒等として世界中で認知が拡大中。
ウイスキー	日本産品の品質が世界中でブランドとして定着。
本格焼酎・泡盛	原料の特徴を残すユニークな蒸留酒としての評価があり、今後の輸出拡大に期待。

※その他の野菜（たまねぎ等）についても、水田等を活用して輸出産地の形成に積極的に取り組む。

輸出重点品目以外でも、輸出事業計画の認定を受けるなど輸出目標とその実行のための課題と対策を明確化する産地等に対しては、引き続き適切に支援

<参考> 重点品目に係るターゲット国・地域、輸出目標等の明確化

○輸出重点品目毎に、輸出に向けたターゲット国・地域を特定し、ターゲット国・地域毎の輸出目標を設定。目標達成に向けた課題と対応を明確化。

牛肉

【目標額】

297億円(2019年) → **1,600億円(2025年)**

○国別輸出額目標とニーズ対応への課題・方策

国名	2019年	2025年	ニーズ・規制対応への課題・方策
香港	51億円	330億円	消費者向けプロモーションの強化。スライス肉、加工品等の新たな品目の輸出促進。
台湾	37億円	239億円	
米国	31億円	185億円	認知度向上のためのプロモーション。様々な部位も含めた輸出促進。
EU	21億円	104億円	

○輸出産地 18産地

- ・生産から輸出まで一貫して輸出に取り組むコンソーシアムを産地で構築
- ・食肉処理施設等による輸出先国が要求する条件への対応
- ・繁殖雌牛の増頭奨励金交付、牛舎等の施設整備等による生産基盤の強化

○販路開拓

- ・コンソーシアムによる産地と一体となった商談
- ・オールジャパンでの和牛の認知度向上に向け、日本畜産物輸出促進協議会やJFOODOによるプロモーションを実施

コメ・コメ加工品

【目標額】

52億円(2019年) → **125億円(2025年)**

○国別輸出額目標とニーズ対応への課題・方策

国名	2019年	2025年	ニーズ・規制対応への課題・方策
香港	15億円	36億円	中食・外食を中心にした需要開拓
米国	7億円	30億円	外食、EC等の需要開拓。 パックご飯・米粉の更なる市場開拓。
中国	4億円	19億円	EC、贈答用需要の開拓。指定精米工場等の活用・追加。
シンガポール	8億円	16億円	中食・外食を中心にした需要開拓

○輸出産地 30産地

- ・千トン超の輸出用米の生産に取り組む産地を育成
- ・大口ロットで輸出用米を生産・供給
- ・生産・流通コスト低減、輸出用米の生産拡大を推進

○販路開拓

- ・（一社）全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会による新興市場でのプロモーション等を実施

果樹（りんご）

【目標額】

145億円(2019年) → **177億円(2025年)**

○国別輸出額目標とニーズ対応への課題・方策

国名	2019年	2025年	ニーズ・規制対応への課題・方策
台湾	99億円	120億円	大玉で赤色の贈答用に加え、値頃感のある中小玉果の生産・供給体制を強化
香港	37億円	45億円	香港で好まれる黄色品種の生産・供給体制を強化
タイ	4.5億円	5.5億円	富裕層のほか、買い求めやすい価格帯の生産・供給体制を強化

○輸出産地 8産地

- ・既存園地の活用や水田への新植、省力樹形の導入等による生産力の強化
- ・産地と輸出事業者等が連携したコンソーシアムの形成

○販路開拓

- ・日本青果物輸出促進協議会の機能強化に向けた検討
- ・輸送実証、プロモーション活動などを支援

ぶり

【目標額】

229億円(2019年) → **542億円(2025年)**

○国別輸出額目標とニーズ対応への課題・方策

国名	2019年	2025年	ニーズ・規制対応への課題・方策
米国	159億円	320億円	小売店の調達基準を満たす生産の拡大と安定供給。 現地の食嗜好に合わせた商品を開発・製造。
中国	13億円	60億円	活魚の需要があるアジア向けに、活魚運搬船を活用した物流・商流を構築
香港	11億円	40億円	

○輸出産地 10産地

- ・漁場の大規模化、沖合養殖の推進、生け簀の整備により増産
- ・育種や低魚粉飼料の開発により生産コストを低減

○販路開拓

- ・水産物・水産加工品輸出拡大協議会と有限責任事業組合日本ブリ類養殖イニシアティブとが共同でプロモーション等を行うことを検討

スマート農業の推進による成長産業化

MAFF

- ▼ **スマート農業**とは、「**ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業**」のことです。
- ▼ 「生産現場の課題を先端技術で解決する！ **農業分野におけるSociety5.0※の実現**」。

※Society5.0：政府が提唱する、テクノロジーが進化した未来社会の姿

全国205地区でスマート農業実証プロジェクトを実施

施設野菜（ピーマン）



植物が光合成能力を最大限発揮するために適切な温度、湿度、CO₂濃度を維持することが難しい

労働時間…1,095時間/10a
収 量…16.6 t /10a
単 価…506円/kg

露地野菜（キャベツ）



規模が拡大し、数百のほ場があるため、収穫適期の見極めや人員配置など、作業管理に時間がかかる

労働時間…46時間/10a
収 量…2.7 t /10a
単 価…57円/kg

果樹（温州みかん）



高品質果実の安定生産には、土壌水分に応じたかん水等が必要であり、家庭選果に時間がかかる

労働時間…209時間/10a
収 量…2.4 t /10a
単 価…415円/kg



細霧（ミスト）発生装置
極細霧により昇温を抑制

統合環境制御装置
温度、湿度、CO₂濃度等を一括制御

労働時間…1,172時間/10a
収 量…20.2 t /10a
単 価…497円/kg

環境制御により、収量が増加

収量 2 割 増加



ドローンによるセンシング
収穫時の収量予測

AIを活用した作業管理

労働時間…37時間/10a
収 量…3.2 t /10a
単 価…82円/kg

空いた時間で直接取引先を新規に開拓し単価が上昇

労働時間 2 割 減少
単 価 4 割 増加



クラウド型かん水コントローラー

土壌水分データ等を基にかん水を遠隔制御

ロボット搭載型プレ選果システム

AIで果皮障がい等を検出し、自動選果
労働時間…168時間/10a

収 量…2.6 t /10a
単 価…415円/kg

ロボット搭載型プレ選果システム等により労働時間を削減

労働時間 2 割 減少

課題

コスト面 スマート農機の導入コストが高額。

単価面 生育・市場のデータ等を品質・収益向上に結びつけられていない。

労働時間面 手間のかかる収穫等の機械化が不十分。スマート農機の操作に不慣れ。

その他 通信環境の未整備地域も存在。

「みどりの食料システム戦略」の実現を図る上でも、**スマート農業の導入がカギ**。
課題を克服しつつ**デジタル技術**を活用した**スマート農業の集中展開**により、**若者にも魅力ある農業を実現**

スマート農業人材の育成とデータ活用の促進

今後の対応方向

スマート農業の実証・分析

- ・農業者が利用しやすい形で経営診断を行うシステムを開発
- ・スマート農業実証プロジェクトの成果をとりまとめ、スマート農業導入効果を分析、発信

導入コスト低減に向けた農業支援サービスの育成・普及

- ・立ち上げ当初のビジネス確立や農機の導入支援等による農業支援サービスの育成・普及
- ・投資円滑化法に基づく出資等による活動支援

更なる技術の開発等

- ・開発が不十分な野菜や果樹等の作業ロボット等の開発
- ・環境負荷低減に資する小型農業ロボットや、AI等を活用した病害虫発生予測技術を開発

技術対応力・人材創出の強化

- ・実証プロジェクトに参加した農業者や産官学の有識者からなるスマートサポートチームによる他産地のサポートを推進
- ・農業大学校・農業高校等での実践的な教育環境を整備

実践環境の整備

- ・技術の進展に応じた制度の見直しを実施
- ・農業データ連携基盤の充実によるICTサービスの創出促進
- ・農地の大区画化、情報通信環境の整備等の農業農村整備を推進

海外への展開

- ・スマート農機を活用したデータ連携システムに係る国際標準化を推進
- ・海外への専門家の派遣や国際議論への参画等、国際的なアウトリーチ活動を強化

スマートサポートチーム

実証で培われた技術・ノウハウを有する生産者、民間事業者等からなる**スマートサポートチーム**による、**新技術を積極的に取り入れる産地**の支援

農業支援サービス

農業支援サービスの活用による、**スマート農業に関心があるが、自力では取り組むことが困難な生産者・産地**の支援

普及指導員

普及指導員による、**データに基づく生産者・産地指導**への支援

農林水産省若手職員によるBUZZMAFFを通じたスマート農業の広報活動

これらを総合的に行うことにより、現場でのデータ活用とスマート農業人材を更に創出

2025年までに農業の担い手のほぼすべてがデータを活用した農業を実践

みどりの食料システム戦略（概要） ～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

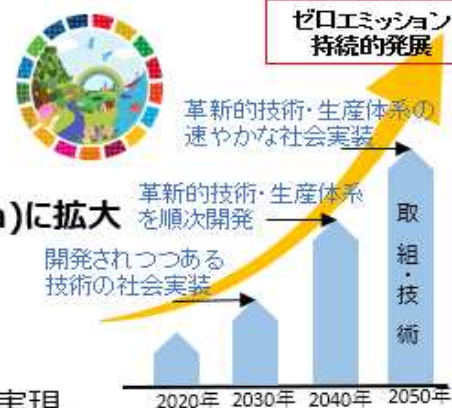
目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

戦略的な取組方向

- 2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）
- ※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。
2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。
- ※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。
地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。



期待される効果

経済 持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会 国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

環境 将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

みどりの食料システム戦略（具体的な取組）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

調達

1. 資材・エネルギー調達における脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減の推進

- (1) 持続可能な資材やエネルギーの調達
- (2) 地域・未利用資源の一層の活用に向けた取組
- (3) 資源のリユース・リサイクルに向けた体制構築・技術開発

～期待される取組・技術～

- 地産地消型エネルギーシステムの構築
- 改質リグニン等を活用した高機能材料の開発
- 食品残渣・汚泥等からの肥料成分の回収・活用
- 新たなタンパク資源（昆虫等）の利活用拡大等

2. イノベーション等による持続的生産体制の構築

- (1) 高い生産性と両立する持続的生産体系への転換
- (2) 機械の電化・水素化等、資材のグリーン化
- (3) 地球にやさしいスーパー品種等の開発・普及
- (4) 農地・森林・海洋への炭素の長期・大量貯蔵
- (5) 労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大
- (6) 水産資源の適切な管理

～期待される取組・技術～

- スマート技術によるピンポイント農薬散布、病害虫の総合防除の推進、土壌・生育データに基づく施肥管理
- 農林業機械・漁船の電化等、脱プラ生産資材の開発
- バイオ炭の農地投入技術
- エリートツリー等の開発・普及、人工林資源の循環利用の確立
- 海藻類によるCO₂固定化（ブルーカーボン）の推進等

生産

消費

4. 環境にやさしい持続可能な消費の拡大や食育の推進

- (1) 食品ロスの削減など持続可能な消費の拡大
- (2) 消費者と生産者の交流を通じた相互理解の促進
- (3) 栄養バランスに優れた日本型食生活の総合的推進
- (4) 建築の木造化、暮らしの木質化の推進
- (5) 持続可能な水産物の消費拡大

～期待される取組・技術～

- 外見重視の見直し等、持続性を重視した消費の拡大
- 国産品に対する評価向上を通じた輸出拡大
- 健康寿命の延伸に向けた食品開発・食生活の推進等

・持続可能な農山漁村の創造
・サプライチェーン全体を貫く基盤技術の確立と連携（人材育成、未来技術投資）
・森林・木材のフル活用によるCO₂吸収と固定の最大化

- ✓ 雇用の増大
- ✓ 地域所得の向上
- ✓ 豊かな食生活の実現

3. ムリ・ムダのない持続可能な加工・流通システムの確立

- (1) 持続可能な輸入食料・輸入原材料への切替えや環境活動の促進
- (2) データ・AIの活用等による加工・流通の合理化・適正化
- (3) 長期保存、長期輸送に対応した包装資材の開発
- (4) 脱炭素化、健康・環境に配慮した食品産業の競争力強化

～期待される取組・技術～

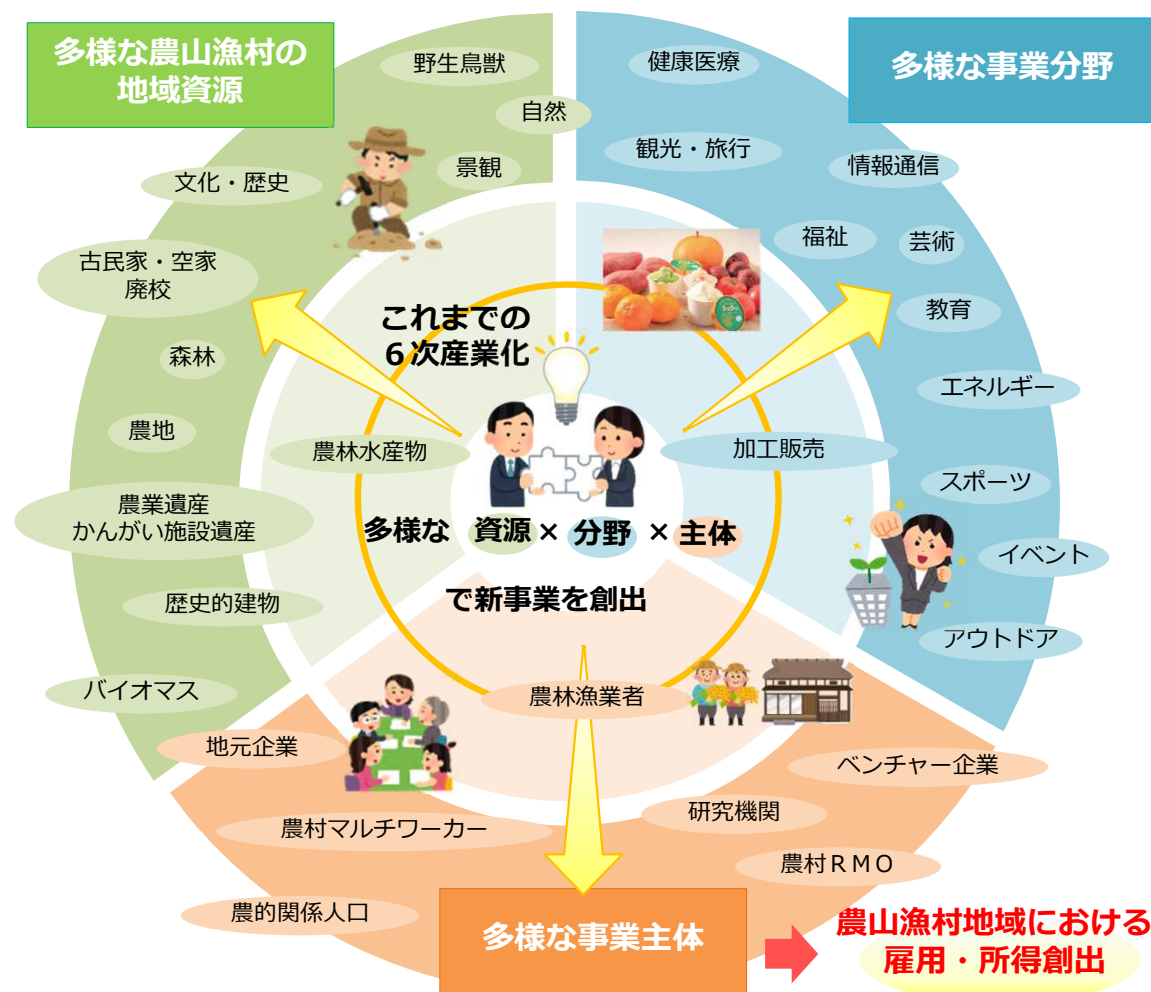
- 電子タグ（RFID）等の技術を活用した商品・物流情報のデータ連携
- 需給予測システム、マッチングによる食品ロス削減
- 非接触で人手不足にも対応した自動配送陳列等

加工・流通

農山漁村発イノベーションによる雇用・所得の創出

MAFF

- ▼ 地域の活性化のため、農林漁業者や地元の企業なども含めた多様な主体の参画によって新事業や付加価値を創出していく「農山漁村発イノベーション」の取組を支援しています。



農山漁村発イノベーション

- 農山漁村のあらゆる地域資源をフル活用した取組を支援
- 他産業起点の取組など他分野との連携を一層促進

例えば…

「農産物、景観」 × 「加工販売、観光・旅行」
× 「農林漁業者、地元企業」

「森林」 × 「スポーツ」 × 「ベンチャー企業」

「農産物」 × 「加工販売、観光旅行、教育」
× 「農林漁業者、地元企業」

農林水産業・食関連産業のデジタルトランスフォーメーション

MAFF

- ▼ 農業政策や行政内部の事務についてもデジタルトランスフォーメーション（DX）を進めることが不可欠です。
- ▼ 「農業×デジタル」で食と農の未来を切り拓く農業DX構想を策定。

農林水産省共通申請サービス（eMAFF）



自宅のPC、
スマホから
申請可能

紙の管理が
不要

eMAFFをはじめとする既存の業務の見直しに関する取組が高く評価

- ・ 一般社団法人 日本データマネジメント・コンソーシアム 主催
「データマネジメント大賞」受賞（2022年3月）
- ・ 日経コンピュータ 主催
「IT Japan Award 2022 特別賞」受賞（2022年6月）

3. 職場環境

現場を知る

○ 新規採用者研修

入省1年目の職員を対象に4月に合宿形式により行われます。公務員としての心構えや農林水産行政の基礎知識を講義形式で学ぶ【高尾コース】と、ほ場での実習や先進的な生産現場における現地研修を行う【つくばコース】の2本立てで実施しています。



○ 農村・企業派遣研修

農業体験や現場の声を聴くことを通じて農業・農村の現場を肌で感じることを目的とします。入省2年目の職員を対象に、近畿圏内各地の農家の元に5日間派遣し、農業者の生活に密着し、農作業体験の充実を図ります。



能力を高める

○ 実務能力向上研修

農林水産行政を担うに当たり、現場の声を踏まえた施策を企画・推進するため、管内各部の幹部による講演や、外部講師を招いた講演などを行っています。

また、現場においてふさわしい礼儀作法を身につけることを目的に、ビジネスマナー研修も実施しています。



○ シンポジウム、セミナー

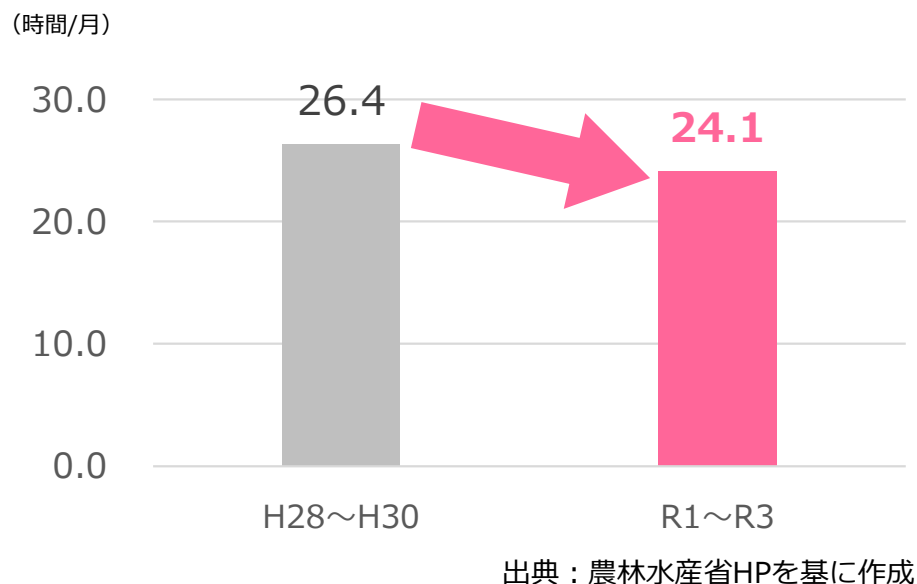
近畿農政局が主催する「和食シンポジウム」、「食育シンポジウム」などのシンポジウムや各種セミナーにも参加できます。



○ その他にも、さまざまな研修を実施しています！

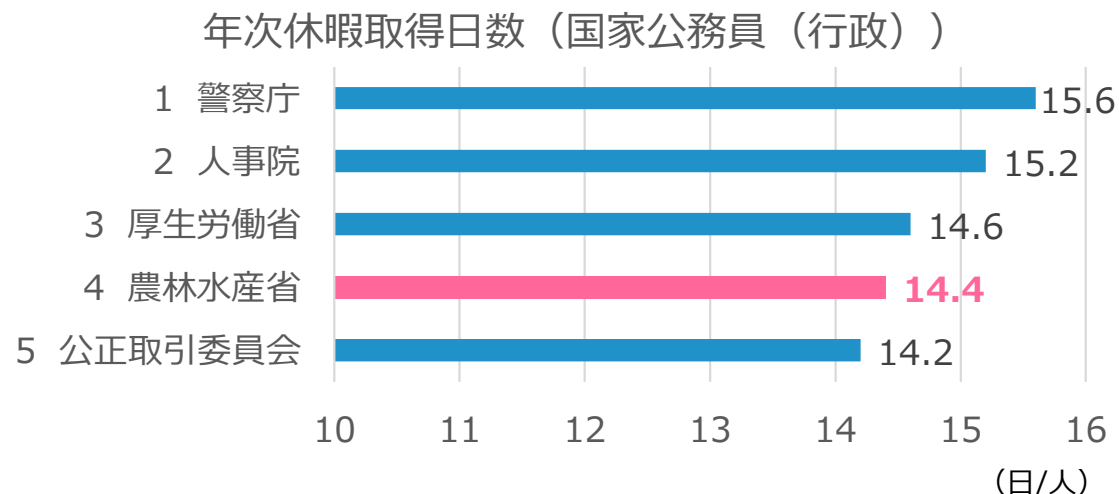
職員の働き方（働き方改革）

○ 超過勤務時間は減少傾向



○ 休暇取得

一人当たりの年次休暇取得日数は、**全省庁で4番目**



○ 多様な働き方～テレワーク等～

- ・テレワーク、フレックスタイム制度、早出遅出出勤など、ライフスタイルに合わせた勤務時間の選択が可能。
- ・令和2年度実績では、**テレワークの実施回数**が多い府省（本省）で農林水産省は**全省庁で3番目**（国家公務員テレワーク取組状況等調査より）。

○ 職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

本省 (常勤職員)	25.0時間
地方機関 (常勤職員)	6.5時間
合 計	11.1時間

※令和3年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。
出典：農林水産省HP

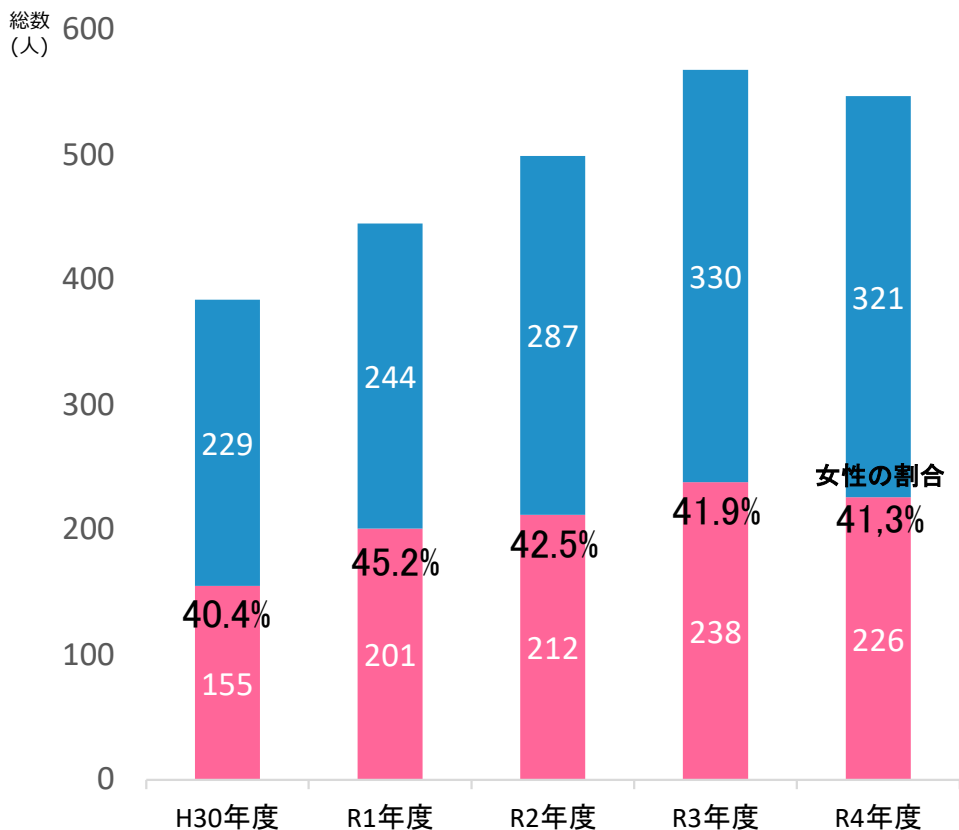
働き方改革
キャラクター



職員の働き方（女性登用・両立支援）

○ 女性国家公務員の採用状況

農林水産省における直近の女性公務員の採用割合は、**40%**を超えています。

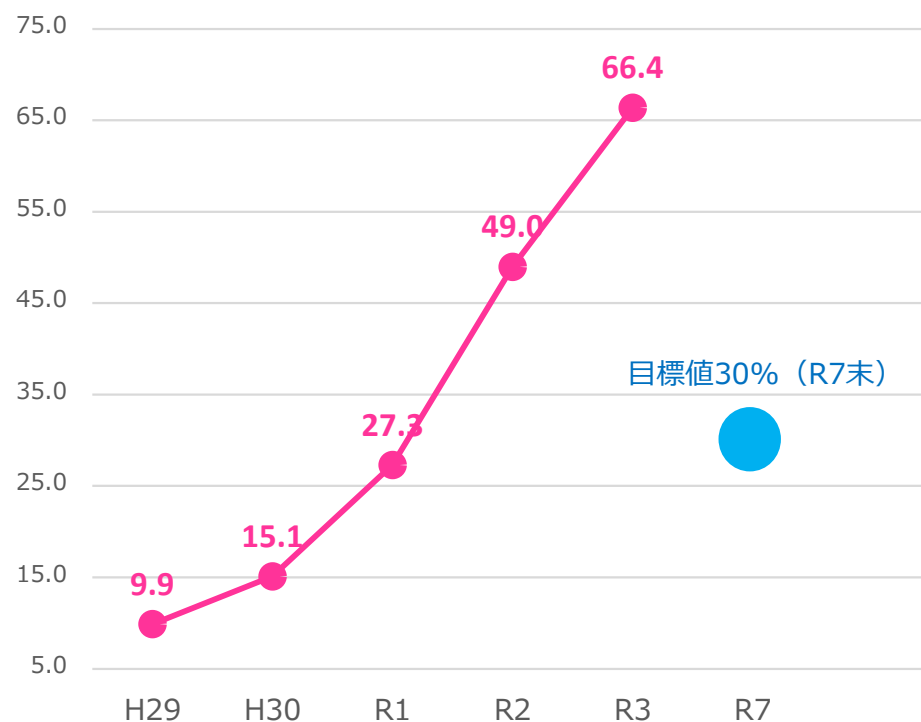


出典：農林水産省HPを基に作成

○ 育児休業取得率

女性職員の育児休業取得率は100%。
男性職員の取得割合も増加。

(%) 男性職員育児休業取得率



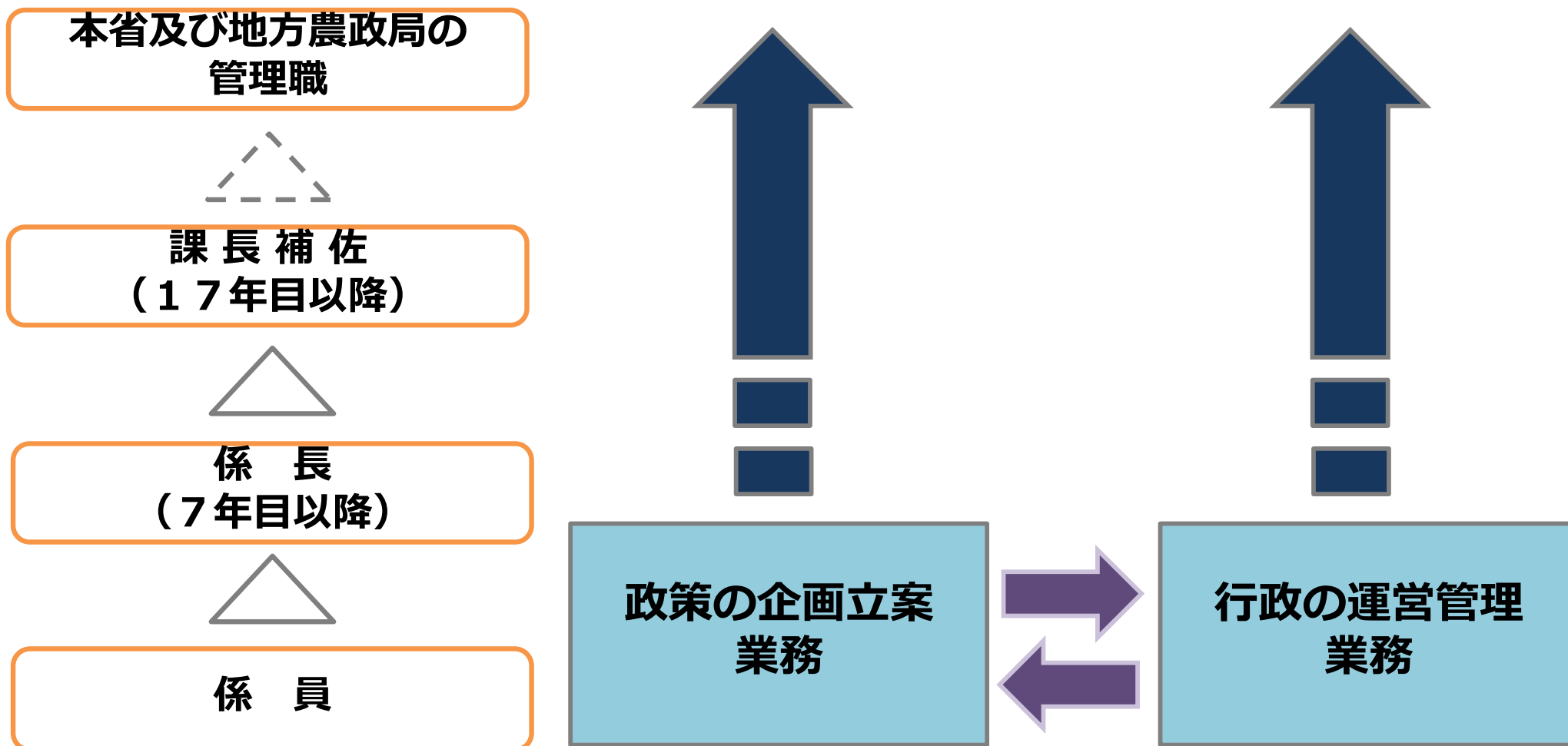
出典：国家公務員の育児休業等の取得状況のフォローアップ



4. 採用案内

入省後のキャリアパス【一般職・行政】

- ▼ 近畿農政局管内（2府4県）での異動が基本となります。ただし、一度は本省での業務経験をしていただきます。
- ▼ 10年目頃までは、本人希望を踏まえつつ、おおむね2年程度で様々なポストを経験していただき、自分にあった分野のスペシャリストを目指していただきます。



一般職(行政)採用後の業務について(業務内容の一例)

MAFF

本省での政策の企画立案業務

・国際関係業務

(輸出・国際局国際戦略グループ)



- ・ G7・G20等の多国間国際会議での交渉(現地出張)、他省庁・在外公館・省内関係部署との連絡調整を行う。
- ・ 2023年は日本がG7議長国であり、4月に開催されるG7宮崎農業大臣会合の開催準備を行う。

・果樹の生産振興

(農産局果樹・茶グループ果樹振興班経営指導係)



- ・ 果樹の生産振興に係る事業の運用や、研究事業、表彰行事、PR活動の推進などを行う。
- ・ 果樹の生産基盤強化のため、生産者などにヒアリングを行い課題を見つけ、事業の検討を行う。R4年度は担い手確保をテーマにシンポジウムを開催した。

(農村振興局農村政策部農村計画課土地利用計画班土地利用推進係)

・歴史まちづくりの推進



- ・ 国交省及び文化庁と3省合同で週1～2回程度の市町村ヒアリングを行い、農業に関する部分の計画の確認や助言等を行う。
- ・ 計画に位置づけられた歴史的価値の高い農業水利施設等の現地視察や計画書の認定に係る手続きを行う。

近畿農政局での行政の運営管理・施策実施業務

・企画・広報業務

(近畿農政局企画調整室)



- ・ 局の窓口として、外部からの依頼等を適切な部署に振り分け、局内の円滑な業務遂行に貢献する。
- ・ 近畿農政局のHPの運営に関する事務を行う。

・予算・会計業務

(近畿農政局会計課)



- ・ 事務費の所要額を精査し、本省を通じて予算要求を行う。
- ・ 予算が、適切に執行されるようその執行状況を管理する。
- ・ 会計検査院の行う検査に関する連絡調整に関する事務を行う。

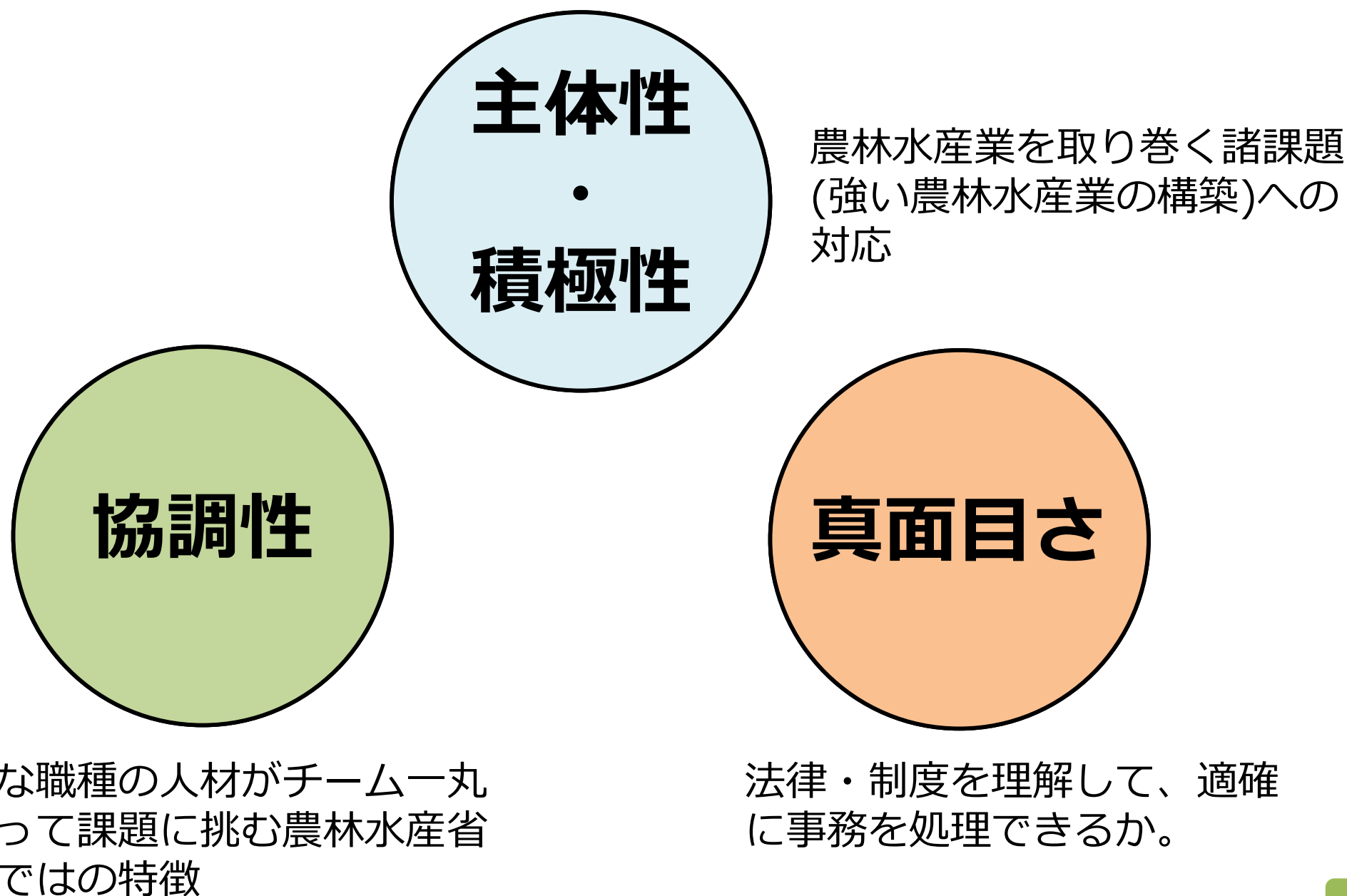
・人事・採用業務

(近畿農政局総務課人事第1係)



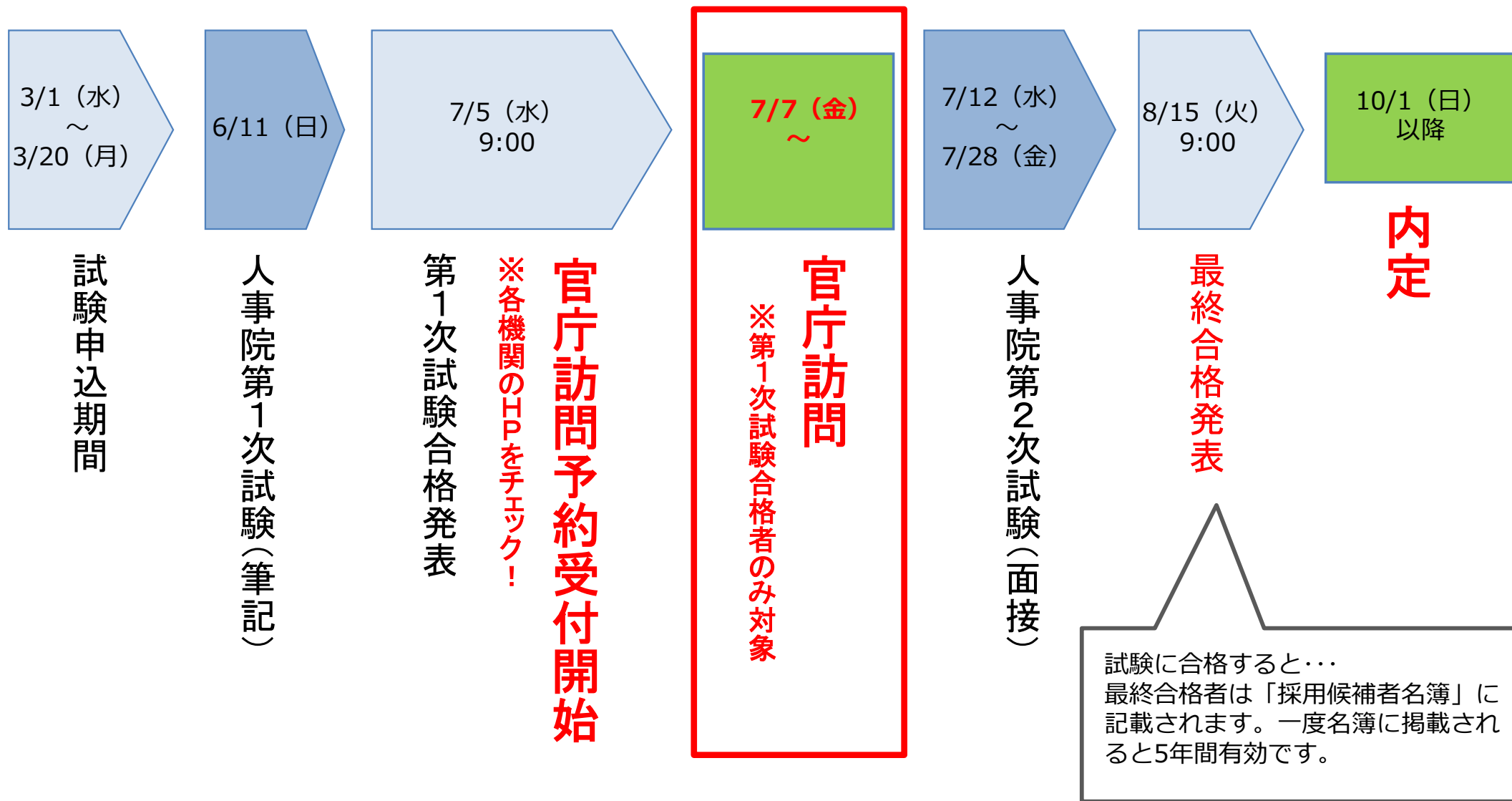
- ・ 人事異動に伴う辞令を作成、農林水産省本省や他の地方農政局との人事交流の連絡等を行う。
- ・ 新規採用に向けた業務説明会の企画や、開催に際しての連絡・調整業務、官庁訪問等の採用事務を実施する。

求められる能力、資質とは？



採用スケジュール(令和5年度国家一般職)

MAFF



近畿農政局の近年の採用実績(一般職(大卒程度)行政)

一般職（大卒程度）行政区分の採用人数は増加傾向にあり、近畿農政局内に年齢の近い先輩職員がいることで、気軽に相談がしやすく働きやすい職場になっています。

一般職（大卒程度）行政		
採用年度	採用人数 (うち女性職員)	主な配属部署
平成31年度 (令和元年度)	10 (4)	総務課、会計課、農村振興部
令和2年度	7 (4)	総務課、会計課、農村振興部
令和3年度	11 (2)	企画調整室、総務課、会計課、 経営・事業支援部、農村振興部
令和4年度	10 (4)	総務課、会計課、消費・安全部、生産部、 経営・事業支援部、農村振興部
令和5年度	12 (7)	企画調整室、総務課、会計課、消費・安全部、 経営・事業支援部、農村振興部

5. 近畿農政局若手職員紹介



黒川 仁美

H27採用 生産部生産振興課豆類振興係

皆さんへのメッセージ

公務員試験では、大学の先輩から”面接を疎かにしないように”と聞いていたので、自分自身・志望先・公務員という職業について念入りに調べてノートにまとめ、面接の想定問と回答案を作っては、カメラに向かって毎日面接練習をしていました。

就職すると生活の大部分をそこで過ごすことになるので、何を重視して選んだらいいのかと悩むこともあるかと思います。私は、職場や職員の方の雰囲気になんか惹かれたことを重視して決めましたが、今でも良かったと感じています。この文を見てくださっている方が、近畿農政局に来た際、同じように感じてくださると嬉しいです。いつか一緒に働けることを楽しみにしています。

～現場の課題・意識を感じられる業務～

Q1 今担当している業務は？

近畿管内の豆類の生産振興業務を担当しています。府県担当者から報告のあった大豆や小豆の生育状況を取りまとめるようなデスクワークをしたり、実需者(豆腐屋さん等)・学識経験者(大学教授等)・生産者など大豆の関係者に集まっていたり、生産現場(大豆のほ場)にて意見交換会・講演会を開催したりしています。農業現場での生産者の方々との意見交換会に参加させていただく機会もあり、「現場が抱える課題や問題意識」を直に感じられる業務環境です。

～新鮮な国産農産物を守っていききたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

新鮮な国産の農産物を守っていく仕事ができると考えたからです。就活をしている際、実家で新鮮な野菜を食べていて、この野菜が自分の子ども世代・孫世代になっても食べていけるのだろうか…とふと思ったことから、農林水産省について調べ、志望するに至りました。

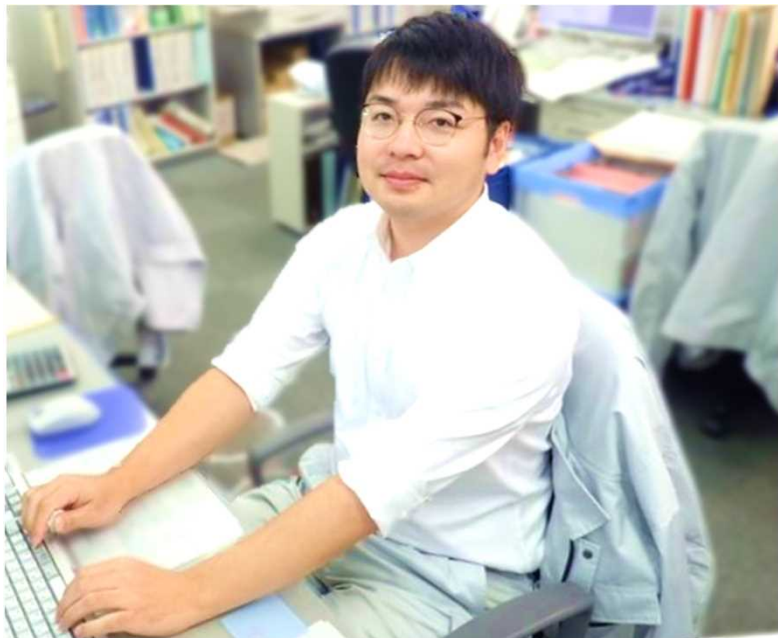
～周りのかたの優しいサポート～

Q3 職場環境について

現在所属している課だと周囲の方は農学区分での採用の方が多いのですが、行政区分で採用された私にも変わらず親切に接して下さいますし、直属の上司であるか否かに関わらず質問や相談に優しく対応してくれます。私は学生の時、社会人になるのがとても怖かったのですが、周りの方が優しくサポートして下さることで今まで続けてこられたと感じています。

有給休暇は1時間単位で取得できるので、業務を調整すれば「私用のため夕方2時間お休みを取って早めに帰らせてもらう」ということも可能です。大型連休に合わせて有給休暇を取る方も結構いて、非常に取得しやすい環境です。





立野 晃史

H27採用 和歌山平野農地防災事業所用地第一課補償係長

皆さんへのメッセージ

ぜひ、いろんな業務説明会に参加してください。そして、いろんな人の話を聞いてみてください。いろんな人の話を聞いて、ここで働きたいと思えるところを見つけてください。

就職活動で、皆さんの選択が後悔しない結果になることを祈っております。

～用地交渉が成立した時の達成感～

Q1 今担当している業務は？

私は、現在、近畿農政局の出先機関の和歌山平野農地防災事業所に在籍しております。和歌山平野農地防災事業では、農地や町に水がつかないように排水路や排水機場などの排水施設を整備しており、その中で私は、工事に必要な土地の買収や借地などを行っています。

土地の所有者に納得していただくまで説明を行うため、交渉に何か月もかかる場合もありますが、交渉がうまくいったときは非常に達成感を感じることができる、やりがいのある仕事です。

～雰囲気が自分にあっている感覚～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

合同業務説明会で話を聞き、また官庁訪問のときに人事の方と話をしていくうちに、人事の方の雰囲気が自分にあっているな、私もここで働きたいなと思い、志望しました。

～非常に働きやすい環境～

Q3 職場環境について

近畿農政局は非常に働きやすい環境にあると私は思います。社会人になったらストレスを抱えることが多いというイメージを持っていましたが、入ってみて仕事をすると周りの方々がいろいろ助けてくれるので、ストレスを抱えることはあまりなかったです。

また、残業も、繁忙期を除き、ほとんどないですし、有給休暇も月一回以上取得しております。





下川 彩夏

H29採用 東条川二期農業水利事業所庶務課

皆さんへのメッセージ

なるべく多く官庁を回って、自分にあったところを見つけてください。実際、私もさまざまな官庁で説明を聞き、それぞれ違った雰囲気を感じましたが、近畿農政局は、職員のみなさんが穏やかで優しい方が多く、アットホームな雰囲気があり、ここで働いてみたいと強く思うようになりました。

もし、同じように近畿農政局で働きたいと思っていただけたなら、面接では、多少詰まっても自分の言葉でありのまま、熱意を伝えた方がいいと個人的には思います。

いろいろと悩むこともあるかと思いますが、最後まで自分を信じて頑張ってください！

～幅広い業務に携わることができる～

Q1 今担当している業務は？

現在は、出先機関の東条川二期農業水利事業所で庶務を担当しています。主に、職員の給与計算、福利厚生、宿舍の管理、共済事務などを担当しています。当事業所は設置から間もなく、ノウハウの蓄積がないので分からないことや戸惑うことも多いですが、日頃から本局や他事業所の担当者と連絡を取り、より効率的な方法を試行錯誤しながら業務に取り組んでいます。本局に比べると、業務は広く浅くで、幅広い仕事に携わっており、日々勉強させていただいています。

～誰もが密接にかかわる「食」に携わりたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

食べることが大好きで、その一方で、食べ物が手つかずのまま捨てられることを常日頃からもったいないと感じており、食品ロスの問題に大変関心がありました。農林水産省では食品ロス削減のために、恵方巻きなどの季節商品の需要に見合った販売の推進や、飲食店での食べきり、持ち帰りの啓発など、さまざまな取り組みをしていることを知り、近畿農政局を志望しました。他にも誰もが密接にかかわる「食」に関する仕事ができるのは、とても魅力的だと思います。

また、他の官庁と違って本局が京都にあるので、休日には京都観光を楽しめるのもひとつの魅力だと思います！

～アットホームな雰囲気～

Q3 職場環境について

現在の職場は職員数が10名ほどの小さな事業所なので、一人ひとりとの距離が近く、アットホームな雰囲気です。現在に限らず、これまでの部署でも、周囲の方は何か困ったことがあれば助けてくれますし、相談しやすい風通しのよい職場だと思います。

年休もとりやすく、私も月に1日は取得しています。また、育児休暇も、制度だけでなく、実際にとりやすい環境で、復帰している先輩職員もたくさんいます。





白井 梨花

R3採用 総務課支給係

皆さんへのメッセージ

公務員試験はどうしても、筆記試験の対策に力をいれてしまいがちになると思いますが、面接対策にも早い段階から取り組んでおいた方が良いと思います。様々な官庁の説明会に参加し、仕事内容や働いている人の雰囲気などをみて、志望動機を固めておくことが大切だと感じました。私は、各官庁で伺った話やその時自分が感じたことなどを、ノートにまとめておき、すぐに見返すことができるようにしていました。

就職活動は大変なことも多いと思いますが、最後まで自分を信じて頑張ってください。一緒に働くことができる日を楽しみにしています。

～責任は大きい、やりがいを感じる～

Q1 今担当している業務は？

給与支給事務を担当しています。職員の給与計算は、基本的にはシステム上で行われるので、システムにより算出された職員の給与の額や手当が適切であるかを確認するのが主な業務です。毎月スケジュールが決められているため、締め切りを意識しながら緊張感を持って取り組んでいます。手当の制度など、業務についてわからないこともあります。その都度周りの方に相談したり書籍で調べたりして解決するようにしています。勉強することが多い分、日々成長を感じることができると思います。職員の生活に関わる業務ですので、責任は大きいですが、毎月の給与の支給が無事完了した際には、やりがいを感じることができます。

～「食」を通じて日本の発展を支えたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

食は生きていくうえで不可欠というだけでなく、人間関係や文化の形成に役立ちます。重要な役割を担う「食」を通じて、日本の発展を支えるお手伝いができればと思い、志望しました。

また、官庁訪問に参加した際に職員の方の穏やかな雰囲気をみて、ぜひここで働きたいと思ったことも志望した理由の一つです。



～質問しやすい雰囲気～

Q3 職場環境について

上司や先輩方はとても優しく、わからないことがあればすぐに質問することができる雰囲気があります。細かいことまで丁寧に教えてくださり、日々感謝しています。官庁訪問で持ったイメージと良い意味で大きく差はなかったように感じています。

残業についても、繁忙期以外は定時に帰ることができますし、定期的に休暇も取得できます。仕事とプライベートが両立でき、働きやすい職場であると思います。





磯部 佳孝

R3採用 企画調整室

皆さんへのメッセージ

時間の許す限り、様々な業界・団体の説明会やインターンシップ等に参加してみるのがいいと思います。私自身、多くの説明会等に参加しましたが、業務内容だけでなく、その職場の雰囲気や考え方等、資料だけではわからないことも知ることができ、志望動機や「働く」ということのイメージがより鮮明になりました。もしかしたら、思いもよらない職場との出会いに恵まれるかもしれません。皆様が悔いなく就職活動を終えられることを祈っております。

～知識が身につくたび成長を感じる～

Q1 今担当している業務は？

農林水産省が行っている各種施策について、近畿農政局内の各部署や農林水産本省との連絡調整を主に行う総括業務と、近畿農政局ホームページの管理業務を担当しています。

総括業務では、施策や仕事の進め方について分からないことも多くありますが、その都度上司の方や担当部署の方に教えていただきながら進めています。学ぶべきこともたくさんありますが、新たな知識が身につくたびに成長を感じています。

ホームページ管理業務では、公開前の新しいページや既存のページを事前にチェックする過程で、農政局の様々な取組みや農業者様・関連事業者様の様々な活動に目を通す機会があるため、政策や制度が現場でどのように取り組まれているのかを知ることができて、非常に面白いです。

～生産者・消費者の両側から「食」を支えることができる～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

私自身、食べることが好きなので、何かしら「食」に関わることでできる仕事に就きたいと漠然と考えつつ様々な説明会を回っていたなかで、近畿農政局の説明会を聞き、興味を抱きました。何度か説明会や座談会を重ね、実際に生産者側・消費者側の双方向から「食」を支えることができる仕事内容に魅力を感じ、また対応いただいた職員の方々の人柄に惹かれたため、志望するようになりました。

現在はコロナ禍であり機会は多くありませんが、出張等で農業者様等の生の声を聞くことができるのができるのは、農政局ならではの魅力ではないかと感じます。



～丁寧に教えてもらえる環境～

Q3 職場環境について

上司の方々は分からないことや素朴な疑問など、どんなことを聞いても丁寧に教えてくださいます。また仕事の内容上、他の部署の方とも話す機会が多いのですが、どなたも親切に対応してくださり、非常にありがたく思っています。

休暇も1時間単位で取得することができるので、プライベートとの両立も十分に可能です。総じて、非常に働きやすい職場環境だと思います。





橋本 航一

R3採用 地方参事官室（京都府拠点）

皆さんへのメッセージ

公務員試験対策としては、ひたすら過去問を解き、確実に解ける問題を増やしていました。また、志望理由や自己PRなど面接で質問される内容を、友達と話しながら深掘りすることで何を質問されても自信をもって答えられるように準備していました。コロナ禍での就活でいろいろ大変なこともあると思いますが、体調に気を付けて頑張ってください。

～現場と農政を結ぶ業務～

Q1 今担当している業務は？

私は地方参事官室京都府拠点に所属しており、市町村や各関係機関への政策や予算の説明、そして農業者との意見交換、課題への対応などのいわゆる現場と農政を結ぶ業務を担当しています。現場の意見・要望等を直接聞き、雰囲気を感じ取れることは貴重であり、現場と農政の橋渡しの役割を担えていることにやりがいを感じています。

～生産現場に近く、食と農に携われる～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

大学時代、農学部で農業経済や地域振興の分野を専攻しており、食と農に関する仕事に就きたいと思っていたので、農林水産業に広い分野で関わることができ、かつ、生産現場に近い近畿農政局を志望しました。近畿農政局は、気さくで優しい職員の方々が多く、職場の雰囲気が温かいのが魅力だと思います。

また、研修や勉強会が充実しており、業務に役立つ知識やスキルを身に付けられる機会が豊富であることも魅力です。

～相談しやすく、一緒に考えてくれる～

Q3 職場環境について

仕事で分からないことは上司に聞きやすく、丁寧に教えてくださったり、一緒に考えてくださったりします。残業はほとんどなく、休暇も取りやすい環境です。

入省前のイメージと違った点は、部署によっては年が近い職員が少ないことです。私が所属している部署は農業者との意見交換などで様々な政策に関する知識が必要となりますが、豊富な知識を持った職員が周りにいてくれるので、安心感もありますし、学ばせていただくこともたくさんあり、非常にありがたいと感じています。その分、同期との関係も大切にしています。





平山 諒太郎

R3採用 農村振興部用地課用地係

皆さんへのメッセージ

筆記試験の勉強に加えて面接対策、説明会への参加など大変な毎日かと思います。私は面接に苦手意識があったので、大学のキャリアセンターや新卒応援ハローワークなどをよく利用して、色々な方に相談したり、模擬面接を受けたりしました。経験を多く積むことで本番の自信に繋がると思います。また、国家・地方関係なく、様々な官庁の説明会に参加することをおすすめします。職場の雰囲気を感じたり、分からないことを質問したりすることで、自分に合っているな、働きたいなと思うところを選んでいただけたらと思います。その中で近畿農政局を選んでいただけたら、嬉しいです。皆様と一緒に働けることを楽しみにしております。

～第一線で活躍していくことにやりがい～

Q1 今担当している業務は？

現在は用地係で、業務運営の基礎となる要領細則や通知集の改正業務、近畿農政局管内にある事業所や府県の用地補償業務実績を取りまとめ、本省へ報告する業務、地権者の調査に必要な戸籍謄本・抄本、住民票、登記事項証明書、公図などを取得する業務、工事に必要な土地の使用や補償の契約手続きに関する業務などを担当しています。

用地に関係する法令や用語などは難しいものが多いですが、本で調べたり、上司に質問したりするなど学ぶことが多く、日々成長を感じています。土地の境界を決める作業に立ち会った際には、これまでに勉強した作業の手順や係長が地権者に説明する様子を自分の目で確認することで、今後私も第一線で活躍していくことにやりがいを感じました。

～安心・安全に暮らせる社会を作りたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

食を安定かつ効率的に供給することで、人々が安心・安全に暮らせるような社会を作りたいと思い、志望しました。小さい頃から防災に関心を持っていたことや祖父が農業をしていたこともあり、生まれ育った近畿で、自然災害に強い農業農村の整備を実施している近畿農政局に魅力を感じました。

また、業務説明会でお話した職員の方々の雰囲気、自分に合っていると感じたことも決め手の一つとなりました。

～休暇が取りやすい雰囲気～

Q3 職場環境について

分からないところがあれば、上司や先輩など周りの方が何でも教えてくださいますので、非常に働きやすい職場です。

休暇については、業務と調整しながら、上司が積極的に取るように教えてくださいますので、取りやすい雰囲気です。有給休暇は1時間単位で取得でき、夏季休暇と年次有給休暇を組み合わせで連休をつくることもできます。





伊藤 翔太

R3採用 経営・事業支援部輸出促進課

皆さんへのメッセージ

就活中は勉強や面接対策で忙しいと思いますが、1か所にこだわりすぎず、多くの説明会に参加し、「ここで働きたい。ここでも働きたい。」と思える職場をいくつか見つけておくとうれしいと思います。不安や緊張でソワソワする気持ちもありますが、「休む」ことを大事にしましょう。体力・気力ともに充実させ、本番に万全の体調で臨むためにも、体調にお気をつけてお過ごしください。皆さまと働ける日を楽しみにしております。

～「輸出」という政策の大きな柱に携わる～

Q1 今担当している業務は？

現在は、輸出促進課という部署で、輸出に取り組む事業者の支援等を行っており、特に補助金関連の業務に関わっています。パンフレットでも見てもらったかもしれませんが、「輸出」は農林水産省の政策の大きな柱であり、一年目からそのような政策に携わらせていただけるのは、大変勉強になります。

最初は要綱・要領等の規則類の把握や、輸出の現状や施策の勉強等、難しいものが多かったのですが、業務を行ううちに、申請の流れがつかめたり、業務の理解が少しでも深まったりしたときに、「勉強した甲斐があった」と感じます。

また、加工品などの1次産品以外のものに関わる機会が多く、農業・林業・水産業以外にも接することができるのは意外な一面でした。

～現地で見聞きしたことがモチベーションにつながる～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

元々、私が日本史を専攻していたこともあり、日本の文化に根差した「和食」に興味を抱き、日本の食文化の保護・継承や、年中行事と関連した食文化の普及に携わりたいと考え、近畿農政局を志望しました。

今年度はコロナの影響で出張等は少なかったのですが、大阪市場のセリの見学や、他課の過去の交付金事業での建造物の確認など、現地を見て、声を聞いて…という機会を積極的に作っていただける点は魅力もあり、自身のモチベーションにもつながるのかなと思います。



～自分の時間を確保しやすい職場～

Q3 職場環境について

今まで全く触れてこなかった分野の仕事なので、わからないことばかりですが、上司に聞きやすい雰囲気を作られていたり、業務の対応についても気軽に相談できるため、非常にありがたいです。

休暇については、年次休暇を取ることが推奨されており、上司からも声をかけていただいたり、また、1時間単位での休暇も取れたりするので、休みは取りやすいと思います。

総じて、自分の時間を確保しやすい職場だと感じています。





中島 美瑛

R4採用 会計課調達係

皆さんへのメッセージ

公務員試験は筆記試験や面接練習など先が見えず、不安になることもあるかもしれませんが、私の場合は、面接が特に不安でした。

面接で話す内容を事前に考えておくことは重要ですが、それを一言一句暗記するのではなく、自分自身の言葉で話す練習をするのが個人的にはおすすめです。当日は面接官の皆さんが私の言葉に真摯に耳を傾けてくださったので、リラックスして挑むことが出来ました。無理に自分を飾らなくても、自分らしく話すことできっと熱意が伝わると思います…！皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしております。

～コミュニケーションを通したやりがい～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、会計課の調達係に所属しています。職場で普段使用しているプリンタや公用車、レンタカーの利用に関する支払業務など、主に局内で働く職員の方を支えるような事務一般を行っています。

入省前は、「会計課」といえば一人で黙々と書類に向き合って電卓を叩くというイメージがありました。ですが実際は、業務を行う上で課内の職員はもちろん、他部署の担当者や業者の方とコミュニケーションをとる機会も多く、やりがいを感じながら仕事をしています。

～行政から日本の食や農業を支えるという魅力～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

中学生の頃の修学旅行で北海道に行き、ファームステイ先の農家の方とお話した経験がきっかけで食や農業に関心を抱きました。そして、就職活動中に近畿農政局の説明会に参加し、行政の立場から日本の食や農業を支えるという選択肢に魅力を感じたため、志望しました。

また、説明会や座談会に参加した際、職員の皆さんがとても穏やかで優しく、「このような雰囲気の良い職場で働きたい」と考えたため、近畿農政局に就職することを決めました。

～職員が働きやすい環境が整っている～

Q3 職場環境について

上司や先輩方は優しく和やかな方ばかりで、毎日楽しく働きやすい環境だと感じています。周りの方に分からないことを質問すると、ご自身のこれまでの経験や知識を踏まえて丁寧に教えてくださり、日々勉強になります。

また、職場内では積極的に年次有給休暇を取得することが推奨されており、仕事とプライベートのどちらも充実させることが出来ています。



(2022年度時点)



平野 智司

R4採用 会計課調達係

皆さんへのメッセージ

筆記試験・面接対策等で忙しい中、ご覧いただきありがとうございます。就活中は、不安なことも多く大変だと思いますが、ここまで頑張ってきた皆様は、間違いなく成長していると思います！

休むことに不安を感じることもあると思いますが、やる気が起きないときは、休憩するのも1つの手です。やるときはやる、休む時は休むというメリハリをつけて最後まで諦めず頑張ってください！皆様と一緒に働けることを楽しみにしております。

～幅広い業務を理解し、できることが増えていくやりがい～

Q1 今担当している業務は？

私は会計課調達係に所属しています。主な業務内容は、物品の購入や物品の管理に始まり、システムでの支払処理や業者対応など多岐に渡ります。業務の幅が広く、初めは分からないことが多かったのですが、徐々に仕事を理解し、できることが多くなっていくことに、非常にやりがいを感じております。

～日本の食文化を次の世代に残したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

学生時代から、日本の伝統的な食文化である「和食」について勉強しており、日本の食文化を次の世代に残したいという思いをもっていました。そこで、「食」にかかわる仕事且つ地元で働ける近畿農政局を志望しました。ほかにも、地方自治体などを受験していましたが、説明会や官庁訪問時の雰囲気になじめず、近畿農政局に就職することを決めました。

～安心して仕事に取り組める環境で ワークライフバランスも充実～

Q3 職場環境について

分からないことや不安なことがあった場合は、上司の方々が分かるまで教えてください。安心して仕事に取り組むことができます。また、残業はほとんどなく、退勤後の時間は有意義に使うことができます。また、休暇も好きなタイミングで取ることができ、私自身、趣味のサッカー観戦で全国を飛び回っています。ですので、推し活など自分の時間を確保したい方には良い環境だと思います。（ちなみに、私の推しはJリーグの京都サンガF.C.です！）



（2022年度時点）



目木 春佳

R4採用 生産部園芸特産課花き・特産係

皆さんへのメッセージ

就職活動中は、周囲の人と自分を比べて不安になることもあるかもしれません。でも、自分自身のことをよく知り、その考えに正直でいることが、自信を持つための秘訣なのではないかと思っています。そのためには、就職活動に限らず様々な経験を積んで、やりたいことを探す時間をつくることも大切だと思います。

長期間、筆記対策と面接対策を平行して進めていかなくてはならない公務員試験は大変なことばかりですが、皆様の就職活動が悔いの残らない結果となるよう応援しています。

～様々な側面から花きの振興を支援～

Q1 今担当している業務は？

生産部園芸特産課で、近畿管内における花きの生産振興や消費拡大に関する業務を担当しています。

補助金関連の業務を中心に、花き需要喚起のための局内展示やホームページ等での情報発信、花き関連の協議会の運営など、様々な側面から花の振興を支援しています。また、国の事業で導入した施設や、優れた技術・知識を持った生産者のもとに出向き、意見交換や現地調査を行うこともあります。

現在の業務は生産関係をはじめ、小売や市場関係、他の行政機関など、幅広い立場の方々と関わりを持ったり意見を交えたりすることができ、勉強になることがとても多いです。

～農業を取り巻く環境を魅力的にし、幅広く貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

祖父が農業に携わっており、そこで高齢化による耕作放棄地の問題を知ったことが、近畿農政局に関心を持ったきっかけでした。近畿農政局の業務への理解を深めていくうちに、農業を取り巻く環境をもっと魅力あるものにすることを通して、担い手問題だけでなく地域振興や文化・産業の発展などといったことにまで幅広く貢献できると知り、志望しました。

～様々な経験を積むことで 日々成長できる職場～

Q3 職場環境について

積極的に様々な経験をさせようとしてくださる職場だと思います。私は事務系で入省し、農業に関する専門知識は、ほとんどない状態からのスタートですが、所属・担当をまたいだ研修や意見交換、現地調査等を通して、少しずつ分かることも増えてきたと感じています。日常業務においても、分からないことや初めて取り組むことなど、よく気にかけていただいております。

また、テレワークや時差出勤などの制度が浸透していて、実際に多くの人が利用していることを入省してから知って驚きました。人それぞれの生活にあった働き方ができる環境が整っていると思います。



(2022年度時点)



稲垣 諒太

R4採用 農村振興部用地課用地係

皆さんへのメッセージ

私は、できるだけ多く説明会に参加することが大切ではないかと考えています。私は、行政職のほかに公安職や独立行政法人、地方自治体など様々な官庁の説明会に参加しました。その中で職員さんとの会話や業務説明で興味のある事柄かどうかを確かめ、気になる官庁は何度も説明会に参加し知識を深めました。

また、様々な官庁を回ることによって知識が増え、面接のときに話す種にもなりますし、色々回ったうえで「ここに行きたい。」という話もできますのでお勧めです。

筆記試験や面接試験の勉強、志望官庁等の説明会への参加で大変な毎日かと思いますが、体調に気を付けて最後まで頑張ってください。

～本局から現場の用地補償業務を支える～

Q1 今担当している業務は？

現在は局の用地課用地係に勤務しており、業務内容は、土地の買収や補償（用地補償）事務の流れをまとめた要領・細則の改正作業、管内国営事業所において前年度実施された用地補償業務の実績を取りまとめ本省へ報告する作業、事業所で行う土地の買収・使用価格が適正に算定されているかの確認作業などの業務を地区担当の専門官や係長と協力し行っています。

局の用地課では、土地の買収・使用に直接関わることはありませんが、前述のように確認・助言をする形で間接的に関わっており、助言したことが納得されて、採用された際にはやりがいを感じます。

～農業インフラ施設に携わり、食糧問題解決に関わりたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

元々インフラ関連に軸を決め、就職活動を始めました。調べる中で農政局はダムや農業用水路といった農業インフラ施設に携われる点や、農業農村整備事業を通じて強い農業生産基盤を作り、日本の食糧問題解決に関わりたいと思い志望しました。

また祖父が食糧庁の職員だったことや、実家が農業をしていたこともあり農業が身近な存在だったことも理由の一つです。

配属先によっては行政系採用者であっても現場に出ることがあるため、内勤と外勤の両方をしたいという方には魅力的な職場なのではないかと思います。

～明るい雰囲気ですぐに疑問を解消できる環境～

Q3 職場環境について

課内の雰囲気については、皆さん明るい方が多く、よく話しかけてくださいます。そのため質問もしやすく、すぐに疑問を解消できる環境だと思います。特に入省直後は疑問を解消する方法すら分からなかったため、すぐに疑問を解消できる職場には、非常に助かっています。

入省までは農政局の仕事柄、職員は農業関係者が多いイメージを抱いていましたが、私たちの年代では農業関係者は少ない状況ですので、農家でないからだめだというわけではないのでご安心ください。



（2022年度時点）

御覧いただきありがとうございました！！

MAFF

- 近畿農政局の行政区分に関する情報は、近畿農政局HPに掲載しています。



【近畿農政局採用HP】

- お問い合わせ先（行政） 農林水産省近畿農政局総務課人事第1係
Mail: saiyou_kinki@maff.go.jp
Tel: 075-414-9032

御不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。